

第2項 直接測定による出来形管理

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共 通 工 事	10 掘 削	10 基準高(V)	⊕ 65	⊕ 100	線的なものについては 施工延長おおむね 50m につき 1 箇所割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。
		20 幅 (W)	基準幅、 小段幅等 ⊕ 300 ⊖ 100	⊖ 150	
		30 法長 (L)	法長 5 m未満⊕ 125	⊖ 200	
		31 "	" 5 m以上⊕ 2.5%	⊖ 4%	
	40 施工延長		⊖ 200		
	20 盛 土	10 基準高(V)	⊕ 65	⊕ 100	
		20 幅 (W)	天端幅、 小段幅等 ⊕ 300 ⊖ 100	⊖ 150	
		30 法長 (L)	法長 5 m未満⊕ 65	⊖ 100	
31 "		" 5 m以上⊕ 1.3%	⊖ 2%		
40 施工延長		⊖ 200	上記と同一。		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、 法長で20点 以上のもの	左記のもの で20点未満 のもの	左記のもの で箇所単位 のもの		
同 上	同 上	同 上		余盛を指定した場合は余盛計画高により管理する。

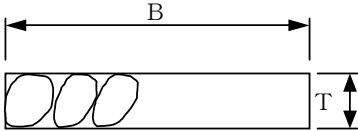
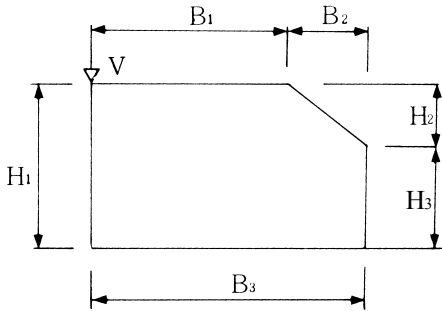
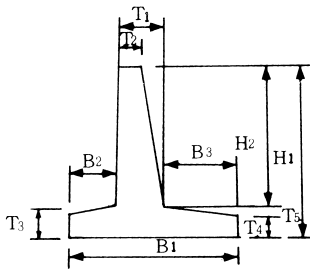
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共通 工事	30 石積み	10 基準高(V)	⊕ 40 ⊖ 25	⊕ 65 ⊖ 40	線的なものについては 施工延長おおむね 20m につき 1 箇所割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 厚さ(T ₁ 、T ₂)の測定は 各々、法長 2 m未満は 1 箇所(おおむね ^L / ₂)、2 m以上は 2 箇所(おおむ ね ^L / ₃ 、 ² / ₃ L)測定する ことを原則とする。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。
	31 コンクリート	20 厚 さ(T ₁)	石面より裏込コンクリ ート背面まで ⊕ 30	⊖ 50	
	32 ブロック積み	21 〃(T ₂)	石面より裏込材料背面 まで ⊖ 65	⊖ 100	
	33 石張工				
	34 コンクリート ブロック 張り	30 法 長(L)	法長 2 m未満⊕ 25	⊖ 40	
		31 〃	〃 2 m以上⊕ 50	⊖ 75	
	〔河川護岸〕 は除く	40 施工延長		⊖0.1%、 ただし延長 10m未満 ⊖ 50	
		41 〃		10m以上 50m未満 ⊖ 100	
		42 〃		50m以上 200m未満 ⊖ 200	
		43 〃			
		50 凹 凸	法長の 1 % (コンクリートブロッ ク積みのみ)		
	40 基礎杭打工	10 基準高(V)	⊕ 50 ⊖ 30	⊕ 75 ⊖ 45	
41 木 杭	11 〃	場所打杭 ⊕ 30	場所打杭 ⊕ 45		
	12 〃	深礎杭 ⊕ 30	深礎杭 ⊕ 45		
42 既製コンク リート杭	20~44 偏心 (e)	別表ア参照	別表ア参照		
	45 〃	深礎杭 100	深礎杭 150		
43 鋼管杭					
44 場所打杭					
45 深礎杭					

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、厚さ、法長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの及び施工延長		<p>基礎コンクリートは 91 コンクリート基礎を適用する。</p> <p>法長の 1%とは、山と谷の差の絶対値をいう。</p>
—	基準高、偏心。 なお、別に支持力を示したのものについては、杭打ち成績表(様式 4)による。	—	$e = \sqrt{x^2 + y^2}$	<p>場所打杭とは、オールケーシング工法、リバース工法、アースドリル工法とする。</p>

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共 通 工 事	50 矢板打 工(矢板護岸 を含む)	10 基準高(V)	⊕ 30	⊕ 45	線的なものについては施 工延長おおむね20mにつ き1箇所の割合で測定す る。 上記未満は2箇所測定す る。
		20 中心線の ズレ (e)	⊕ 65	⊕ 100	
		30 施工延長 31 "		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖200	
	60 オープンケ ーソン	10 基準高(V)	⊕ 65	⊕ 100	構造図の寸法標示箇所を 測定する。 幅、厚さ、長さについて は1ロット毎に測定す る。
		20 幅 (B)	⊕ 30	⊖ 50	
		30 厚さ (T)	⊕ 13	⊖ 20	
		40 高さ (H)	⊕ 65	⊖ 100	
		50 長さ (L)	⊕ 30	⊖ 50	
		60 偏位 (e)	200	300	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレ で20点以上 のもの	左記の もので20点未 満のもの及び 施工延長	左記の もので箇所単 位のもの		中心線のズレ は中心線より 右を⊕左を⊖ とする。 指定仮設は基 準高等が明記 されたもの。
—	構造図に朱 記、併記す ることが困 難なもの	基準高、幅、 厚さ、高さ、 長さ、偏位		

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共 通 工 事	70 栗石基礎	10 幅 (B) 栗石基礎、碎石基礎 ○ 130 砂基礎、均しコンクリート ○ 65	○ 200	線的なものについては 施工延長おおむね50m につき1箇所の割合で 測定する。 上記未満は2箇所測定 する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。	
	71 碎石基礎		○ 100		
	72 砂基礎				
	73 均しコンクリート				
		20 厚さ (T)	栗石基礎、碎石基礎、 砂基礎 ○ 30 均しコンクリート ○ 13		○ 50 ○ 20
		30 施工延長 31 "			○ 0.2%、 ただし延長 50m未満 ○ 100
	80 コンクリート付帯構造物	10 基準高(V)	⊕ 30		⊕ 45
	81 コンクリート基礎	20 幅 (B)	⊕ 20		○ 30
	82 コンクリート側溝	30 厚さ (T) 31 "	部材厚 30 cm未満 ⊕ 15 ○ 13 " 30 cm以上 ⊕ 20 ○ 15		○ 20 ○ 25
	83 コンクリート管渠	40 高さ (H) 41 "	2 m未満 ⊕ 20 2 m以上 ⊕ 30		○ 30 ○ 45
	84 横断構造物	50 施工延長 (又は長さ)			○ 0.1%、 ただし延長 2m未満 ○ 30 10m " ○ 50 50m " ○ 100 200m " ○ 200
	85 コンクリート擁壁	51 "			
	86 その他上記に準ずるもの	52 " 53 " 54 "			

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	重要構造物の基礎のみ及び施工延長	左記のもので箇所単位のもの		管水路の基礎は「8 管水路工事 10 管体基礎工(砂基礎等)」による。
基準高、幅、厚さ、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの又は構造図に朱記、併記することが困難なもの及び施工延長	箇所単位の構造物について、基準高、幅、厚さ、高さ	 	

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共 通 工 事	90 精度を要するもの	10 基準高(V)	± 15	± 20	構造図の寸法標示箇所を測定する。
	91 分水工計量部 92 ゲート戸当部 93 橋台沓部	20 幅 (B)	± 7	± 10	
		30 高さ (T)	± 13	± 20	
		40 高さ (H)	± 7	± 10	
		50 長さ (L)	± 7	± 10	
	100U字溝	10 基準高(V)	± 25	± 40	施工延長おおむね 50mにつき1箇所の割合で測定する。
	101U字フリューム	20 中心線のズレ (e)	± 30	± 50	
	102 ベンチフリューム	30 施工延長 31 "		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	
	110 土水路	10 基準高(V)	指定したとき ± 65	± 100	上記と同一。
		20 幅 (B)	± 100 ⊖ 50	⊖ 75	
30 高さ (H)		指定したとき ± 100 ⊖ 50	⊖ 75		
40 施工延長 41 "			⊖ 0.2%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 400		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ	<p>A technical drawing of a stepped shaft. It shows a shaft with several different diameters and lengths. Dimensions are labeled as follows: B_1 (total length), B_2 (length of the first section), T_1 (thickness of the first section), V (width of the groove), B_3 (total length including groove), B_4 (length of the second section), B_5 (length of the third section), T_2 (thickness of the third section), H_2 (height of the groove), H_1 (total height), and H_3 (height of the base).</p>	
基準高、中心線のズレで20点未満のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>A technical drawing of a U-shaped groove. The dimensions shown are e (offset from the centerline), ϕ (width of the groove), and V (width of the bottom of the groove).</p>	
基準高、幅、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>A technical drawing of a trapezoidal groove. The dimensions shown are ϕ (width at the top), B_1 (width at the bottom), H (height), V (width of the bottom of the groove), and B_2 (width of the bottom of the groove).</p>	

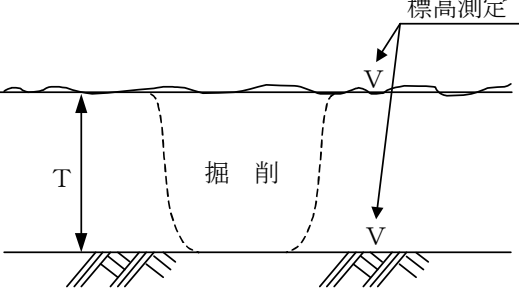
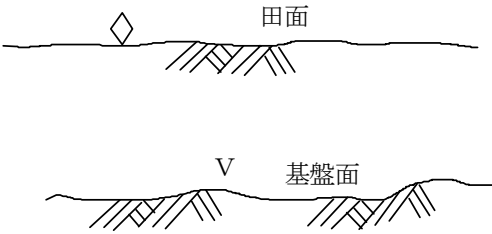
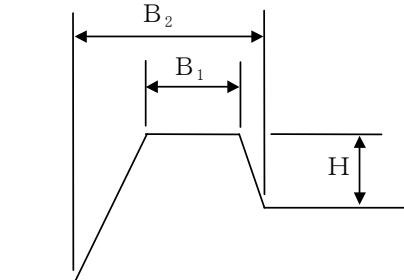
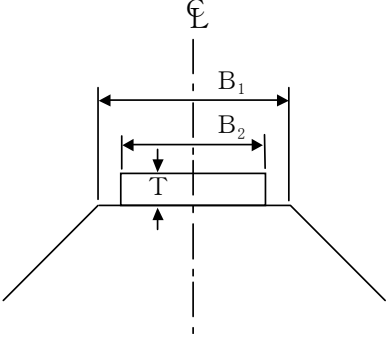
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
1 共 通 工 事	120 鉄筋組立	10 法長 1		$\oplus \phi$ かつ最小かぶり以上 ϕ : 鉄筋径	測定箇所標準図による。 1 スパン(1 打設ブロック)毎に測定する。
		20 中心間隔 (b)		$\oplus \phi$ ϕ : 鉄筋径	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	○	—	<p>鉄筋のかぶり(t)の測定位置(ボックスカルバートの例)</p>	1面当たり 4箇所程度 測定する。 同一鉄筋上 での測定は 行わない。
			<p>中心間隔(b)の測定位置(ボックスカルバートの例)</p>	1面当たり鉄 筋10本程度 の間隔を測定 する。 測定箇所は、 スパン毎に同 じ位置となら ないように測定 する。

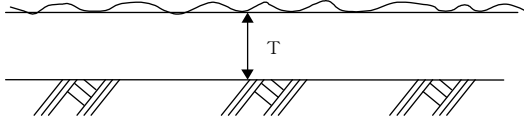
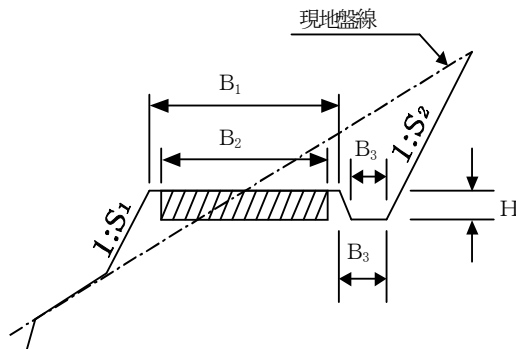
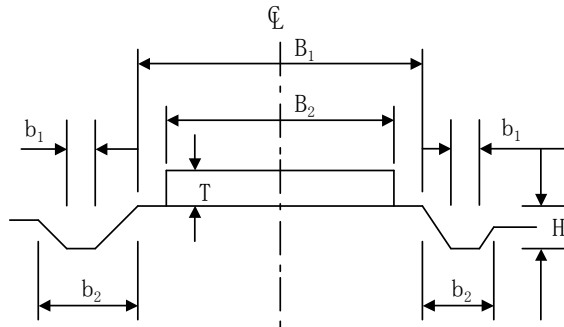
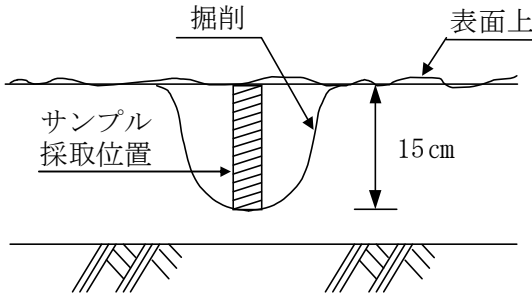
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
1 共 通 工 事	130 羽口工 (じゃかご)	10 法長 l	法長 3m 未満 \ominus 50 " 3m 以上 \ominus 100	施工延長 20mにつ き 1ヶ所、延長 20 m以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。
		20 厚さ t	\ominus 50	
	140 羽口工 (ふとんかご、 かご枠)	10 高さ h	\ominus 100	
		20 延長 L1, L2	\ominus 200	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
厚さ、法長 で 20 点以上のも	左記のも で20点未満 のもの	左記のも で箇所単位 のもの及び 施工延長		
高さ、法長 で 20 点以上のも	左記のも で20点未満 のもの	左記のも で箇所単位 のもの及び 施工延長		

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
2 ほ 場 整 備 工 事	10 表土扱い	10 厚 さ (T)	⊕ 20% ⊖ 15%	⊖ 20%	10a 当たり 3 点以上。 (標高差測定又はつぼ掘りによる)
	20 基盤造成	10 基準高(V)	指定したとき ⊕ 100	⊕ 150	10a 当たり 3 点以上。 (標高測定する)
	21 表土整地	20 均平度 (◇)	⊕ 35	⊕ 50	
	30 畦畔復旧	10 幅 (B)	⊕100 ⊖ 35	⊖ 50	施工延長おおむね200m につき 1 箇所の割合で 測定する。 施工延長を示さない場 合は、1 耕区につき 1 箇 所の割合で測定する。
		20 高 さ (H)	⊕100 ⊖ 35	⊖ 50	
	40 道路工 (砂利道)	10 幅 (B)	⊕ 150 ⊖ 100	⊖ 150	幹線道路は、施工延長 50mにつき 1 箇所の割 合で測定する。 支線道路は、施工延長お おむね200mにつき 1 箇 所の割合で測定する。
		20 厚 さ (T)	⊕ 30	⊖ 45	
		30 施工延長 31 //		⊖ 0.2%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 400	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
基準高、均平度で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		<p>1 基準高は、基盤面の高さとする。</p> <p>2 均平度は表土埋戻後に測定する。</p>
幅、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
幅、厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		<ul style="list-style-type: none"> ・舗装を行うときは、「4 農道工事」を適用する。 ・法面の管理項目が必要な場合は、3 農用地造成工事 30 道路工(耕作道)に準じる。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
3 農 用 地 造 成 工 事	10 耕起深耕	10 耕起深(T) 11 "	果樹 ⊖ 50 野菜 ⊖ 10	⊖ 75 ⊖ 15	おおむね ha 当たり 10 箇所測定するほか、つぼ 掘り 2箇所/ha。
	20 テラス (階段畑)	10 幅 (B ₁)	指定したとき ⊕300 ⊖100	⊖ 150	
		20 耕起幅 (B ₂)	指定したとき ⊕ 100	⊖ 150	
		30 側溝幅 (B ₃)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		40 側溝高さ (H)	指定したとき ⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		50 法勾配(S)	指定したとき ⊕ 2分 ⊖ 1分		
	30 道路工 (耕作道)	10 幅 (B)	⊕ 150 ⊖ 100	⊖ 150	施工延長おおむね 100 m当たり 1 箇所測定す る。
		20 厚さ (T)	⊕ 30	⊖ 45	
		30 側溝幅 (b)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		40 側溝高さ (H)	指定したとき ⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
	40 土壌改良	10 pH測定	指定したとき ⊕ 0.35	⊕ 0.5	おおむね 50a 当たり 1 箇所(深さ 15 cm)改良材 散布後 2 週間以上経過 して測定する。(試験方 法…ガラス電極法…46 農地C第 311 号参照)

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
耕起深で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
幅、耕起幅、側溝幅、側溝高さ、法勾配で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
幅、厚さ、側溝幅、側溝高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
pH測定で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		地表から15 cmの土壌を柱状に採取し、良く混合する。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
3 農 用 地 造 成 工 事	50 改良山成	10 基準高(V)	指定したとき ± 200	± 300	基準高については切土部を 40mメッシュ地点で測定する。 法勾配については 40mメッシュ線と切土法尻との交点で測定する。 (測定間隔はおおむね 40m)
		20 法勾配(S)	指定したとき ± 1 分		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、法 勾配で20点 以上のもの	左記のもの で20点未満 のもの	—		切土部のみ対象とする。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
4 農 道 工 事	10 路盤工	10 基準高(V)	下層路盤 ⊕ 30	⊕ 50	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		20 幅 (B)	⊕ 50 ⊖ 35	⊖ 50	
		30 厚 さ(T)	下層路盤 ⊕ 30	下層 ⊖ 50	
		31 //	上層路盤 ⊕ 20	上層 ⊖ 30	
		40 中心線の ズレ (e)	⊕ 65	⊕ 100	
	50 施工延長 51 //		⊖ 0.2%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 100		
	20 コンクリート舗装工 21 アスファルト舗装工	10 幅 (B)	⊕ 30 ⊖ 20	⊖ 30	幅、中心線のズレについ ては施工延長おおむね 50mにつき 1 箇所の割 合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 厚さはおおむね 500 m ² に 1 個の割合でコアを 取りコア又はコアホー ルにより測定する。
		20 厚 さ(T)	コンクリート舗装 ⊕ 10 ⊖ 6.5	⊖ 10	
		21 //	アスファルト舗装 各層 ⊕ 10 ⊖ 6.5	⊖ 10	
		22 //	全層 ⊕ 15 ⊖ 10	⊖ 15	
		30 中心線の ズレ (e)	⊕ 35	⊕ 50	
40 施工延長 41 //			⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		
50 平坦性(F)		As 舗装 3mプロフィル メータ標準偏差 σ = 2.4 mm以内 直読式標準偏差 σ = 1.75 mm以内 Co 舗装 標準偏差 σ = 2.0 mm以内	平坦性は 1 車線につき 1 測線全延長中心線に 平行に測定する。		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		
幅、厚さ、中心線のズレで 20 点以上のもの 平坦性は舗装調査・試験法便覧による	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	<p>Tと(T)は、ちどりにコア採取 ◇は、コア採取位置</p>	

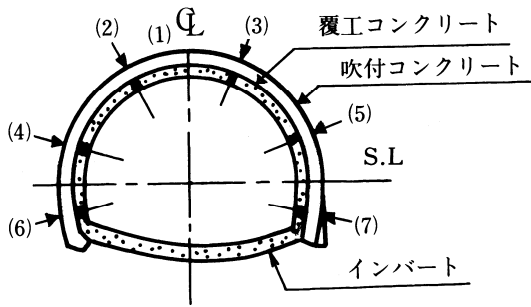
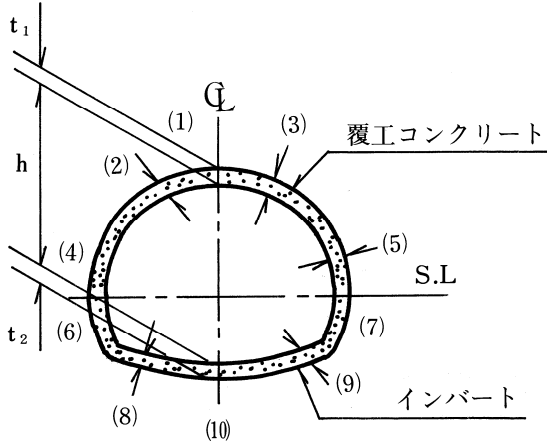
工 種		項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
4 農 道 工 事	30 砂利舗装工	10 幅 (B)	⊕ 100 ⊖ 65	⊖ 100	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。
		20 厚さ (T)	⊕ 30	⊖ 45	
		30 施工延長 31 //		⊖ 0.2%、 ただし延長 50m未満 ⊖ 100	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、厚さで 20 点以上の もの	左記のもの で20点未満 のもの及び 施工延長	—		

工 種		項 目		管理基準値 (mm)	規格値 (mm)	測 定 基 準
4 農 道 工 事	40 道路トンネル	支 保 工	10 幅 (b)		⊖ 70	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。
			20 間 隔 (ℓ)	⊕ 50	⊕ 75	
		コ ン ク リ ー ト 覆 工	30 基準高 (V)	⊕ 30	⊕ 50	1. 基準高、幅、巻厚、高さについては1スパンにつき1箇所割合で測定する。 2. 巻 厚 (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの中間と終点において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (ロ) コンクリート打設後の覆工コンクリートについて1スパンの端面(施工継目)において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (ハ) 削孔による巻厚の測定は図の①において50mにつき1箇所、②③⑨において100mにつき1箇所割合で行う。 ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2箇所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所割合で測定する。
			40 幅 (B)	⊕ 45	⊖ 70	
			50 巻厚 (T)	⊖ 30	⊖ 50	
			60 高さ (H)	⊕ 45	⊖ 70	
			70 中心線のズレ (e)	直線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 100	
			71 "	曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊕ 150	
		80 施工延長			⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	
		81 "				

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で 20 点以上の もの	左記のもの で20点未満 のもの	—		破砕帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。
基準高、幅、 巻厚、高さ、 中心線のズレで 20 点 以上のもの	左記のもの で20点未満 のもの及び 施工延長	—		

工 種		項 目		管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
4 農 道 工 事	50 道路トンネル (NATM)	支 保 工	10 幅 (b)		⊖ 70	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。
			20 間 隔 (ℓ)	⊕ 50	⊕ 75	
		30 吹付コンクリート厚 (T)		施工吹付厚 ≥設計吹付厚 ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長 50m毎に図に示す(1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定する。	
	ロ ツ ク ボ ル ト		40 位置間隔 (L)			施工延長 50m毎に断面全本数を測定する。 (深さについては、残尺で管理する)
			50 角 度 (θ)			
			60 深 さ (ℓ)			
			70 孔 径 (φ)			
	コ ン ク リ ー ト 覆 工		80 基準高 (V)	⊕ 30	⊕ 50	1. 基準高、幅、高さは施工延長 50mにつき1箇所測定する。 2. 巻厚 (イ)コンクリート打設前の巻立空間を、1打設長の終点を図に示す各点で測定、中間部はコンクリート打設口で測定する。
			90 幅 (B)	⊖ 30	⊖ 50	
			100 巻厚(T)	⊖ 0	⊖ 0	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で 20 点以上の もの	左記のもの で20点未満 のもの	—		破碎帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。
吹付厚で20 点以上のもの	左記のもの で20点未満 のもの	—		
—	—	—		
—	基準高、幅、 巻厚、高さ、 施工延長	—		

工 種		項 目		管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
4 農 道 工 事	50 道路トンネル(NATM)	コン ク リ ー ト 覆 工	110 高 さ(H)	⊖ 30	⊖ 50	<p>(ロ)コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において図に示す各点で巻厚測定を行う。</p> <p>(ハ)検測孔による巻厚の測定は図の(1)は50mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔により測定する。</p> <p>(ニ)ただし、以下の場合には適用除外とする。</p> <p>①良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。</p> <p>②異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確保されている場合。</p> <p>③鋼製支保工、ロックボルトの突出。</p>
			120 中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 100	
			121 〃	曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊕ 150	
		130 施工延長 131 〃		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		

工 種		項 目		管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
5 水 路 ト ン ネ ル 工 事	10 水路トンネル	支 保 工	10 幅 (b) (Bタイプ)		⊖ 0	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。
			11 幅 (b) (C, Dタイプ)		⊖ 40	
		20 間 隔 (ℓ)	⊕ 50	⊕ 75		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で 20 点以上の もの	左記のもの で 20 点未満 のもの	—		<p>破碎帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。</p> <p>吹付ロックボルト工法の吹付及びロックボルトは、道路トンネル (NATM) を参考とする。</p>

工 種		項 目		管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
5	水路トンネル	コンクリート覆工	30 基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	<p>1. 基準高、幅、巻厚、高さについては1スパンにつき1箇所の割合で測定する。</p> <p>2. 巻 厚</p> <p>(イ)コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑩の各点で測定する。</p> <p>(ロ)コンクリート打設後の覆工コンクリートについて1スパンの端面(施工継目)において図に示す①～⑩の各点で測定する。</p> <p>(ハ)削孔による巻厚の測定は図の①において50mにつき1箇所、②③④において100mにつき1箇所の割合で行う。</p> <p>ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2箇所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。</p> <p>3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所の割合で測定する。</p>
			40 幅 (B)	⊕ 25	⊖ 40	
			50 巻厚(T)	⊖ 0	⊖ 0	
			60 高 さ(H)	⊕ 25	⊖ 40	
			70 中心線のズレ (e)	直線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 100	
			71 //	曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊕ 150	
			80 施工延長 81 //		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、 巻厚、高さ、 中心線のズレで 20 点 以上のもの	左記のもの で 20 点未満 のもの及び 施工延長	—	<p>設計巻厚線 (D線)</p> <p>S.L.</p> <p>B₁</p> <p>B₂</p> <p>H</p> <p>V</p> <p>①~④ 削孔測定位置</p> <p>S.L.</p> <p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩</p>	

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
6 水 路 工 事	10 現場打開水路	10 基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
		20 幅 (B)	⊕ 25 ⊖ 15	⊖ 25	
		30 厚 さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		40 高 さ(H)	⊕ 15	⊖ 25	
		50 中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
		51 "	曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
		60 スパン長(L)	直線部 ⊕ 13	直線部 ⊕ 20	
		61 "	曲線部 ⊕ 20	曲線部 ⊕ 30	
	70 施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長		
	71 "		150m未満 ⊖ 150		
	20 現場打サイホン	10 基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	
		20 幅 (B)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		30 厚 さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		40 高 さ(H)	⊕ 13	⊖ 20	
50 中心線のズレ (e)		直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50		
51 "		曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100		
60 スパン長(L)		直線部 ⊕ 13	直線部 ⊕ 20		
61 "		曲線部 ⊕ 20	曲線部 ⊕ 30		
70 施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長			
71 "		150m未満 ⊖ 150			

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を 9 m とした場合。
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を 9 m とした場合。

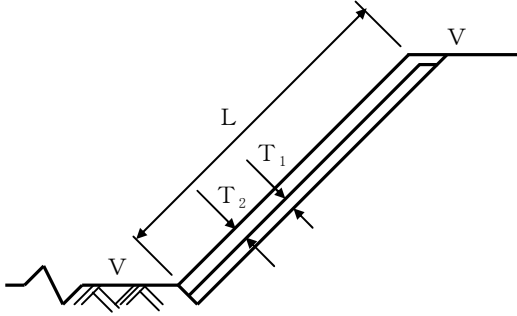
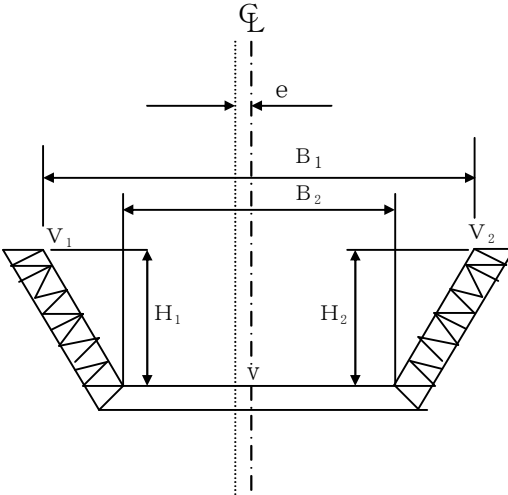
工 種		項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
6 水 路 工 事	30 現場打暗渠	10 基準高 (V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
		20 幅 (B)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		30 厚 さ (T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		40 高 さ (H)	⊕ 13	⊖ 20	
		50 中心線のズレ (e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
		51 //	曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
		60 スパン長 (L)	直線部 ⊕ 13	直線部 ⊕ 20	
		61 //	曲線部 ⊕ 20	曲線部 ⊕ 30	
70 施工延長			⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満		
71 //			⊖ 150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を 9 m とした場合。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
6 水 路 工 事	40 鉄筋コンクリート大型 フリューム	10 基準高 (V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、中心線のズレ (直線部)については施工 延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mにつき 1 箇所の割合 で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 幅、厚さについては施工 延長 50mにつき 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	41 鉄筋コンクリートL形 水路	20 幅 (B)	⊕ 25 ⊖ 15	⊖ 25	
		30 厚 さ (T)	⊕ 20 ⊖ 15	⊖ 20	
		40 中心線の ズレ (e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
	41 //	曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100		
	50 施工延長 51 //		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		
	50 ボックスカ ルバート水 路	10 基準高 (V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mにつき 1 箇所の割合 で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		20 中心線の ズレ (e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
		21 //	曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
		30 施工延長 31 //		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		幅、厚さは L 形水路のみ測定する。
基準高、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長			

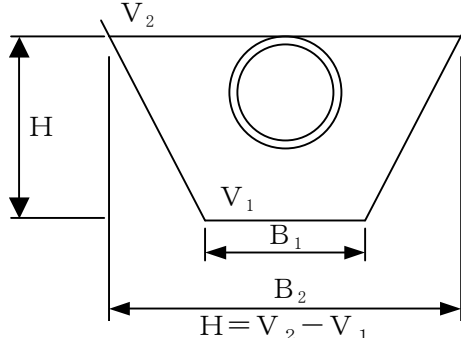
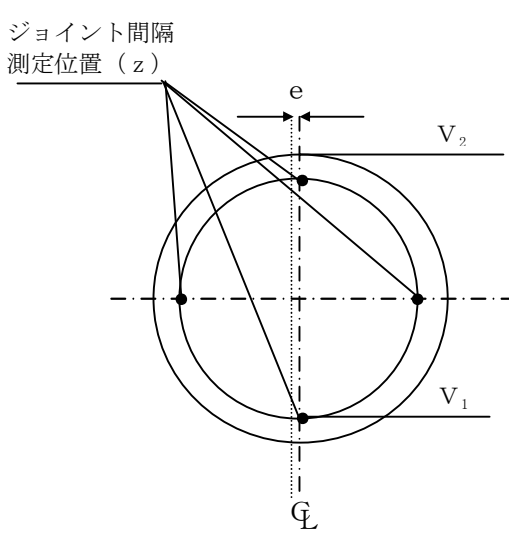
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
7 河 川 及 び 排 水 路 工 事	10 コンクリート法覆工	10 基準高 (V)	⊕ 30	⊕ 45	施工延長おおむね 50mにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
	11 アスファルト法覆工	20 厚 さ (T)	厚さ 10 cm未満 ⊕ 15	⊖ 20	
		21 "	" 10 cm以上 ⊕ 20	⊖ 30	
		30 法長 (L)	法長 2 m未満 ⊕ 30	⊖ 50	
	40 施工延長	41 "	" 2 m以上 ⊕ 65	⊖ 100	⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150
		20 コンクリートブロック積水路	10 基準高 (V)	⊕ 30	
	21 鉄筋コンクリート柵渠	20 幅 (B)	⊕ 25	⊖ 40	
		30 高 さ (H)	⊕ 25	⊖ 40	
		40 中心線のズレ (e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
		41 "	曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
50 施工延長	51 "		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、厚さ、法長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		
基準高、幅、高さ、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		<ul style="list-style-type: none"> ・幅、高さは柵渠には適用しない。 ・土羽部分がある場合は土工(1 共通工事 10 掘削、20 盛土)と組合わせて管理項目を設定すること。

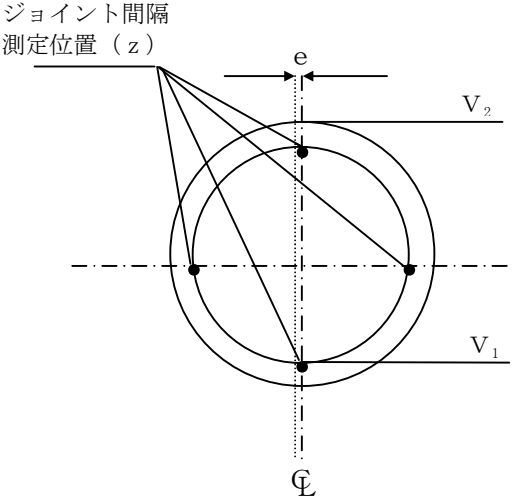
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
7 河 川 及 び 排 水 路 工 事	30 ライニング 水路	10 基準高 (V)	⊕ 50	⊕ 75	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	31 連節ブロッ ク	20 幅 (B)	⊕ 50	⊖ 75	
	32 コンクリー トマット	30 法 長(L)	法長 2 m未満 ⊕ 30	⊖ 50	
		31 "	" 2 m以上 ⊕ 65	⊖ 100	
	40 施工延 長 41 "			⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、 法長で20点 以上のもの	左記のもの で20点未満 のもの及び 施工延長	—		布設時の値である。

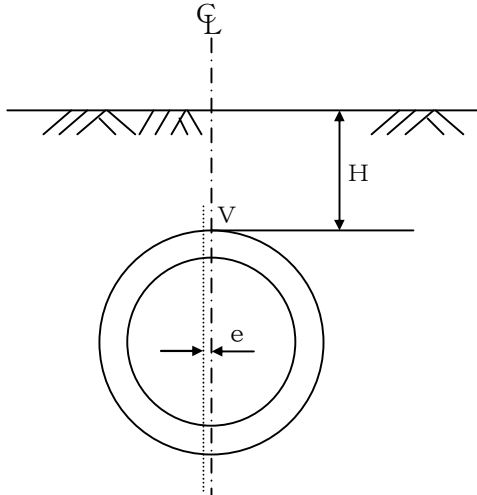
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	10管体基礎工 (砂基礎等)	10 幅 (B)	⊖ 65	⊖ 100	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		20 高さ(H)	⊕ 20		
管水路 (遠心力鉄筋 コンクリート 管) 20RC管	10 基準高(V)	⊕ 20 ただし 被圧地下水のある場合	⊕ 30	⊕ 30	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに 1 箇所の割合で測 定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 ジョイント間隔につい ては 1 本毎に測定する。
	11 "	⊕ 30	⊕ 50		
	20 中心線の ズレ (e)	⊕ 65	⊕ 100		
	30~56 ジョイント 間隔 (z)	別表イ 参照	別表イ 参照		
	60 施工延長 61 "		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2、3-4、3-6)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-4、3-6)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		基礎材が異なる場合は種類毎に測定する。高さ (H) の管理は、 V_2V_1 で算出するものとする。
基準高、中心線のズレ、ジョイント間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置 (z)</p>  <p>基準高 (V) は、V_1、V_2 のいずれか一方を測定し管理する。</p>	<p>Vの測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。</p> <p>ただし、$\phi 1,350$ mm以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂 (V_2) でもよい。</p> <p>e の測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。</p> <p>なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装 (表層、上層路盤、下層路盤) を除いた埋戻完了時点とする。</p>

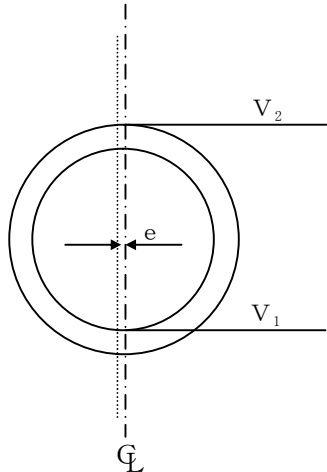
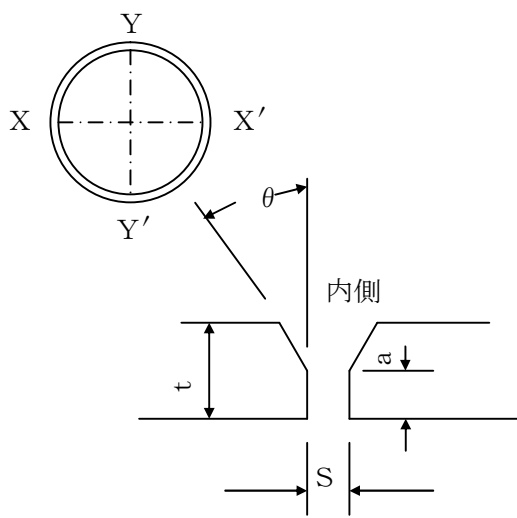
工 種		項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	管水路 (ダクティル 鋳鉄管)	10 基準高(V)	⊕ 20 ただし 被圧地下水のある場合	⊕ 30	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに 1 箇所割合で測 定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 ジョイント間隔につい ては 1 本毎に測定する。
		11 〃	⊕ 30	⊕ 50	
	30K形 31U形 32T形 (強化プラスチック 複合管)	20 中心線の ズレ (e)	⊕ 65	⊕ 100	
	33B形, T形 34C形 35D形	30~59 ジョイント 間隔 (z)	別表ウ及び別表エ参照	別表ウ及び別表エ 参照	
		60 施工延長 61 〃		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2、3-4、3-6)	結果一覧表によるもの (様式3-1、3-4、3-6)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレ、ジョイント間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置 (z)</p>  <p>基準高 (V) は、V_1、V_2のいずれか一方を測定し管理する。</p>	<p>Vの測定は管底 (V_1)を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。 ただし、$\phi 1,350$ mm以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂 (V_2)でもよい。 eの測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。 なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装(表層、上層路盤、下層路盤)を除いた埋戻完了時点とする。</p>

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	40 管水路 (硬質ポリ塩 化ビニル管)	10 基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	設計図書に示された基準高、あるいは埋設深、中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき1箇所割合で測定する。中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10mにつき1箇所割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
		20 埋設深(H)	⊕ 65 ⊖ 35	⊖ 50	
		30 中心線の ズレ (e)	⊕ 80	⊕ 120	
		40 施工延長 41 //		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	
管水路 (鋼管)	<p>管種等の適用範囲は原則として下記による。</p> <p>管 種 J I S G 3443 - 1(水輸送用塗覆装鋼管 - 第1部：直管) W S P A-101-2009 (農業用プラスチック被覆鋼管)</p> <p>寸 法 80A~3500A</p> <p>塗覆装方法 管外面 長寿命形プラスチック被覆とする。 管内面エポキシ樹脂塗装とする。 なお、塗覆装方法の詳細は、別表カのとおりとする。</p> <p>接 合 法 突き合わせ溶接継手とする。</p> <p>工 法 通常の開削による布設工法とする。</p> <p>管路の範囲 導水管、送水管及び配水管とし、配水池、ポンプなどの端部施設との接続部までとする。</p>				

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2、3-4、3-6)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-4、3-6)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、埋設深、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>The diagram illustrates the standard for measuring pipe installation. It shows a cross-section of the ground with a horizontal line representing the ground surface. A vertical dashed line represents the centerline of the pipe, labeled 'G'. The depth from the ground surface to the top of the pipe is labeled 'H'. The pipe is shown as two concentric circles. The horizontal distance from the centerline 'G' to the center of the pipe is labeled 'e'.</p>	
				通常の開削による布設工法とは、矢板土留・建込簡易土留を含むものとする。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	50 管布設	10 基準高(V)	⊕ 20 ただし、 被圧地下水のある場合	⊕ 30	基準高、中心線のズレ (直線部)については施工延長おおむね 50mにつき 1 箇所割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10 mにつき 1 箇所割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		11 〃	⊕ 30	⊕ 50	
		20 中心線のズレ (e)	⊕ 30	⊕ 45	
	30 施工延長 31 〃		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200		
51 V型開先 (両面溶接)	10 ルートギ ヤップ (s)	0~3		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所割合で測定する。	
	20 ベベル角 度 (θ)	30~35°		現場切り合わせの場合のみ全溶接箇所を測定する。	
	30 ルート フェイス (a)	≤2.4			

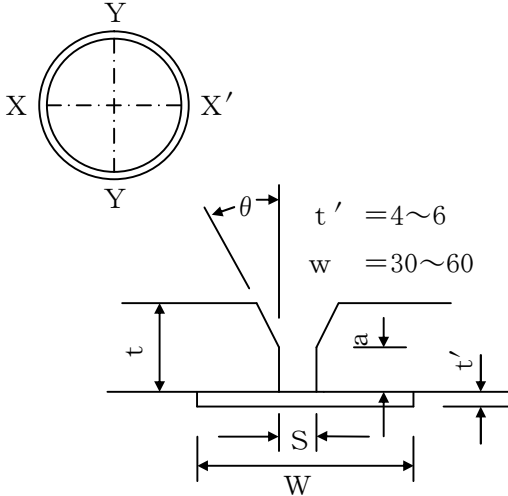
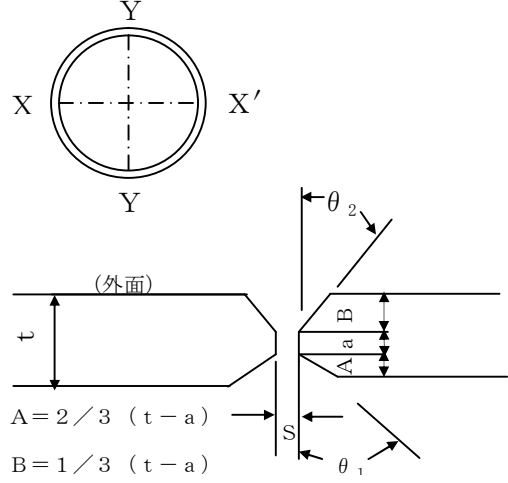
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		<p>Vの測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。</p> <p>ただし、ϕ 1,350 mm以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂 (V_2) でもよい。</p> <p>eの測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。</p> <p>なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。</p>
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—		<p>左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。</p>

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準		
8 管 水 路 工 事	52V型開先テ ーパ付き直 管 (両面溶接)	10 ルート ギャップ (s)	0~3	0~3	テーパ付き直管同士の 溶接箇所全数を測定す る。	
		20 ベベル角 度 (θ)	Y、 Y' : 30~35° X' : 35~15° X : 30~50°	Y、 Y' : 30~35° X' : 35~15° X : 30~50°		
		30 ルート フェイス (a)	≤2.4	≤2.4		
	53V型開先 (片面溶接)	10 ルート ギャップ (s)	1~4	1~4	溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。	
		20 ベベル角 度 (θ)	30~35°	30~35°		現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		30 ルート フェイス (a)	≤2.4	≤2.4		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	<p>(平面図)</p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—		左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。

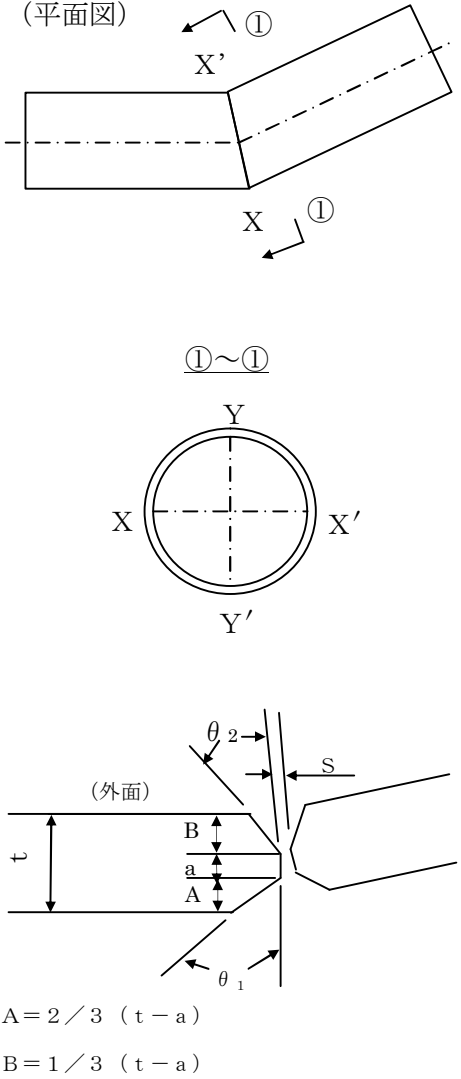
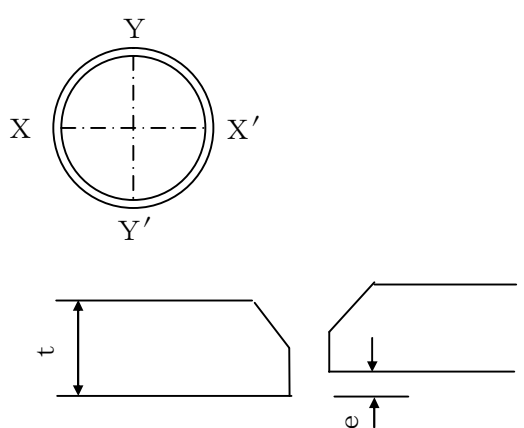
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	54V型開先 (片面裏当溶接)	10 ルート ギャップ (s)	4 以上	4 以上	溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。
		20 ベベル角 度 (θ)	22.5~27.5°	22.5~27.5°	現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		30 ルートフ ェイス (a)	≦2.4	≦2.4	
	55X型開先 (両面溶接)	10 ルート ギャップ (s)	0~3	0~3	溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。
		ベベル角 度 21(θ ₁) 22(θ ₂)	30~35° 40~45°	30~35° 40~45°	現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		30 ルート フェイス (a)	2 以下	2 以下	

管 理 方 式	測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
---------	---------------	-----

管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	 <p style="text-align: right;">$t' = 4 \sim 6$ $w = 30 \sim 60$</p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	 <p style="text-align: center;">(外面)</p> <p>$A = 2/3 (t - a)$</p> <p>$B = 1/3 (t - a)$</p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。

	項 目	管理基準値(mm)	規格値(mm)	測定基準
--	-----	-----------	---------	------

工 種		(参 考)			
8 管 水 路 工 事	56 X型開先テー ーパ付き直 管 (両面溶接)	10 ルートギ ヤップ (s)	0~3	0~3	テーパ付き直管同士の 溶接箇所全数を測定す る。
		ベベル角 度 21(θ_1) 22(θ_1) 23(θ_1) 24(θ_2) 25(θ_2) 26(θ_2)	Y、 Y' : 30~35° X' : 35~15° X : 30~50° Y、 Y' : 40~45° X' : 40~60° X : 45~25°	Y、 Y' : 30~35° X' : 35~15° X : 30~50° Y、 Y' : 40~45° X' : 40~60° X : 45~25°	
	30 ルートフ ェイス (a)	2以下	2以下		
	57 周継手溶接	目違ひ(e) 10 両面溶接 11 〃 12 〃 20 片面溶接 21 〃 22 〃	t : 板厚 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 20 e ≤ 0.25t 20 < t ≤ 38 e ≤ 5.0 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 16 e ≤ 0.25t 16 < t ≤ 38 e ≤ 4.0	t : 板厚 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 20 e ≤ 0.25t 20 < t ≤ 38 e ≤ 5.0 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 16 e ≤ 0.25 t 16 < t ≤ 38 e ≤ 4.0	溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。

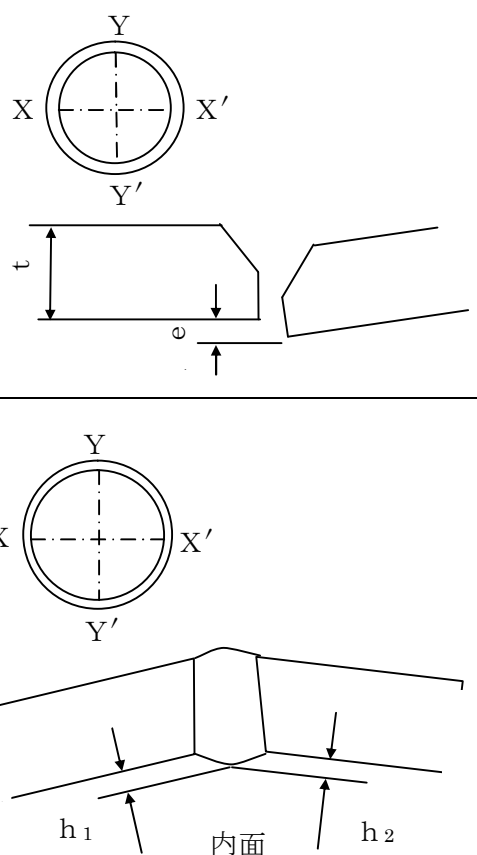
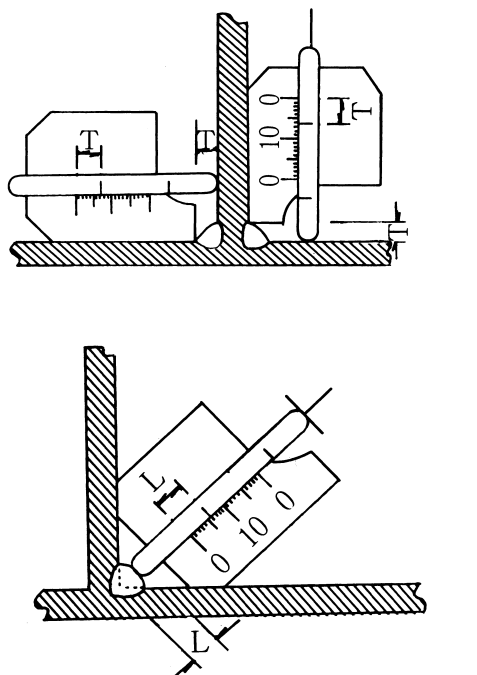
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	<p>(平面図)</p>  <p>①~①</p> <p>Y</p> <p>X X'</p> <p>Y'</p> <p>(外面)</p> <p>t</p> <p>B</p> <p>a</p> <p>A</p> <p>θ_2</p> <p>S</p> <p>θ_1</p> <p>$A = 2/3 (t - a)$</p> <p>$B = 1/3 (t - a)$</p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
目違い、余盛高で 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—	 <p>Y</p> <p>X X'</p> <p>Y'</p> <p>t</p> <p>a</p> <p>ϕ</p>	

	項 目	管理基準値(mm)	規格値(mm)	測 定 基 準
--	-----	-----------	---------	---------

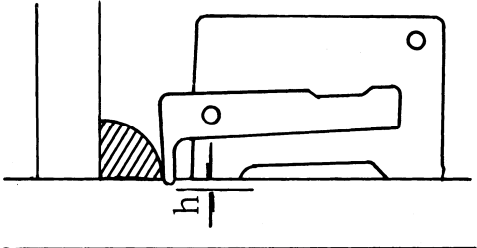
工 種			(参 考)		
8 管 水 路 工 事	57 周継手溶接	30 余盛高(h) 31 "	t : 板厚 t ≤12.7 h ≤3.2 t >12.7 h ≤4.8	t : 板厚 t ≤12.7 h ≤3.2 t >12.7 h ≤4.8	溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定する。
	40 アンダカット (h) 41 "	h ≥0.5 は不合格。0.3 <h ≤0.5 は、1 個の長さ 30 mm (内側にあつては 50 mm) を越えるもの、 又は合計長さが管の円周 長さの 15% を越えるもの は不合格。 h ≤0.3 は合格。		1 箇所毎に全円周を目視 により点検し、懸念のある 部分はゲージにより点検 する。	
	50 ビード 外観	ビード表面に極端な不揃 い部分があつてはならない。		1 箇所毎に全円周を目視 により点検する。	
	60 その他	溶接部及びその付近には、 割れ、アークストライクの 跡、有害と認められる程度 のオーバーラップ、ピット、 ジグ跡などの欠陥があつて はならない。			

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
—	—	○		

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	58 周継手溶接 テーパ付き 直管	目違(e) 10 両面溶接 11 〃 12 〃	t : 板厚 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 20 e ≤ 0.25t 20 < t ≤ 38 e ≤ 5.0	t : 板厚 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 20 e ≤ 0.25t 20 < t ≤ 38 e ≤ 5.0	テーパ付き直管同士の溶接箇所全数を測定する。
	20 余盛高(h) 21 〃	t : 板厚 t ≤ 12.7 h ≤ 3.2 t > 12.7 h ≤ 4.8 ただし h=(h ₁ +h ₂)/2	t : 板厚 t ≤ 12.7 h ≤ 3.2 t > 12.7 h ≤ 4.8 ただし h=(h ₁ +h ₂)/2		
	59 すみ肉溶接	10 脚長(T) 11 〃	指定脚長を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の長さの 5 % 以下で -1.0 mm までは認める。	指定脚長を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の長さの 5 % 以下で -1.0 mm までは認める。	
	20 のど厚 (L) 21 〃	指定のど厚を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の長さの 5 % 以下で -0.5 mm までは認める。	指定のど厚を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の長さの 5 % 以下で -0.5 mm までは認める。		

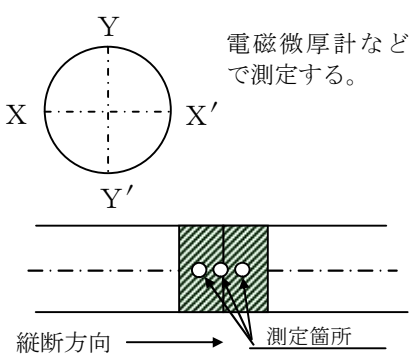
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
目違い、余盛高で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
—	—	○		

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	59 すみ肉溶接	30 アンダ カット(h) 31 #	0.5<h<1.0 の時アン ダカットの長さが板厚 よりも大きいものがあ ってはならない。 h \geq 1.0 のアンダカッ トはあってはならな い。	0.5<h<1.0 の時 アンダカットの長 さが板厚よりも大 きいものがあつて はならない。 h \geq 1.0 のアンダ カットはあっては ならない。	溶接線全長にわたって 目視により点検し、懸念 のある部分はゲージに より点検する。
	40 ピット	ピットの直径が1mm以 下では溶接長さ1mに つき3個までを許容す る。 しかし直径が1mmを超 えるものがあってはな らない。	ピットの直径が1 mm以下では溶接長 さ1mにつき3個 までを許容する。 しかし直径が1mm を超えるものがあ ってはならない。		
	50 ビード 外観	ビード表面に極端な不 揃い部分があってはな らない。	ビード表面に極端 な不揃い部分があ ってはならない。	溶接線全長にわたって 目視により点検する。	
	60 その他	溶接部及びその付近に は、割れ、アークスト ライクの跡、有害と認 められる程度のオーバ ラップ、ジグ跡などの 欠陥があってはならな い。	溶接部及びその付 近には、割れ、ア ークストライクの 跡、有害と認めら れる程度のオーバ ラップ、ジグ跡な どの欠陥があつて はならない。		
	60 放射線透過 試験	10~23 別表オ参 照	別表オの判定基準参照	別表オの判定基準 参照	周継手溶接の場合、全溶 接線長の5%を撮影す るものとする。 すみ肉溶接の場合は特 別仕様書による。
	61 素地調整	10 外観	水分、錆、油等があつ てはならない。	水分、錆、油等が あつてはならな い。	現場塗装全面を点検す る。
	62 エポキシ樹 塗装	10 外 観	塗装表面に異物の混 入、塗りむら、塗りも れなどがあつてはなら ない。	塗装表面に異物の 混入、塗りむら、 塗りもれなどがあ つてはならない。	現場塗装全面を点検す る。

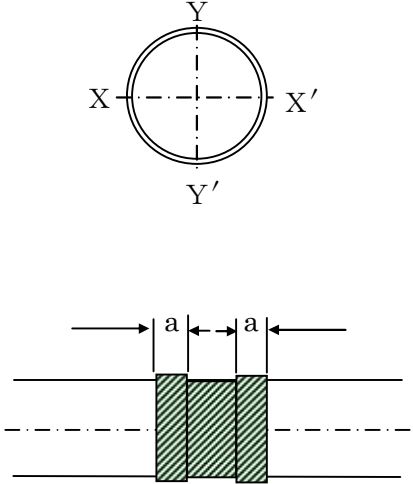
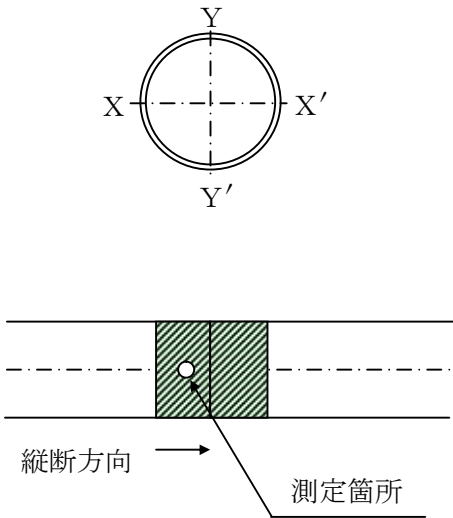
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
—	—	○		
—	—	○		全溶接線長とは、溶接箇所全ての溶接線長の総計をいう。
—	—	○		
—	—	○		JIS G 3443-4に準じる。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	62 エポキシ樹脂塗装	20 膜厚	最低膜厚は別表カ又は特別仕様書に規定する膜厚を下回ってはならない。	最低膜厚は別表カ又は特別仕様書に規定する膜厚を下回ってはならない。	現場塗装箇所 10 箇所につき 1 箇所測定するものとし、1 箇所につき 12 点測定する。(天地左右、縦断方向に各 3 点)
		30 ピンホール	火花の発生するような欠陥があってはならない。	火花の発生するような欠陥があってはならない。	現場塗装全面を点検する。
		40 付着性	付着不良の欠陥があってはならない。	付着不良の欠陥があってはならない。	

管 理 方 式	測定箇所標準位置図及び測定要領	摘 要
---------	-----------------	-----

管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)						
膜厚で 20 点以上のも	左記のもので 20 点未満のもの	—	 <p>電磁微厚計などで測定する。</p>					
—	—	○	<p>ホリデーディテクターを用いてピンホール検査を行う。</p> <p>標準試験電圧</p> <table border="1" data-bbox="654 828 1236 974"> <tr> <td>塗膜の厚さ (mm)</td> <td>試験電圧 (DC V)</td> </tr> <tr> <td>0.5 以上</td> <td>2,000~2,500</td> </tr> </table>	塗膜の厚さ (mm)	試験電圧 (DC V)	0.5 以上	2,000~2,500	
塗膜の厚さ (mm)	試験電圧 (DC V)							
0.5 以上	2,000~2,500							
—	—	○	<p>柄のついた鋼製両刃のへら(全長約 200 mm 程度)を用いてはつき、付着の良否を点検する。</p>					

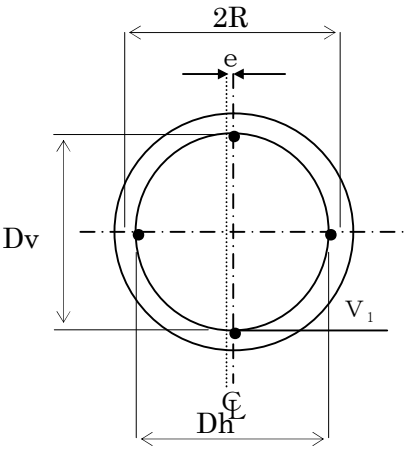
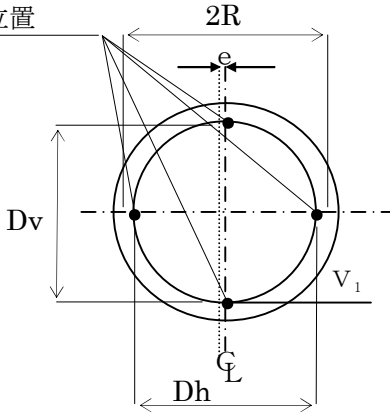
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	65 ジョイント コート	10 焼損	あってはならない。	あってはならない。	ジョイントコート全数を点検する。
		11 両端のめくれ	あってはならない。	あってはならない。	
		12 ふくれ	ジョイントコートの両端から 50mm 以内にふくれがあってはならない。	ジョイントコートの両端から 50mm 以内にふくれがあってはならない。	
		13 工場被覆部との重ね代(a)	片側 50 mm 以上	片側 50 mm 以上	
		20 ピンホール	火花の発生するような欠陥があってはならない。	火花の発生するような欠陥があってはならない。	ジョイントコート全数全面を点検する
		30 膜 厚	別表カのとおり 1.5 mm 以上 ただし、加熱収縮後の厚さとする。	別表カのとおり 1.5 mm 以上 ただし、加熱収縮後の厚さとする。	ジョイントコート施工箇所 10 箇所につき 1 箇所測定するものとし、1 箇所につき 4 点測定する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-2)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	○		
—	—	○	<p>ホリデーディテクターを用いてピンホール検査を行う。試験電圧は10,000~12,000Vを標準とする。</p>	
膜厚で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		

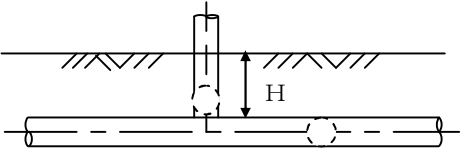
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	管水路 (埋設とう性管)	管種等の適用範囲は原則として下記による。 管 種			
	70 ダクタイル 鋳鉄管	70 J I S J D P A	G5526(ダクタイル鋳鉄管) G1027(農業用水用ダクタイル鋳鉄管)		
	71 鋼管	71 J I S W S P	G3443-1(水輸送用塗覆装鋼管-第1部：直管) A-101(農業用プラスチック被覆鋼管)		
	72 強化プラスチ ック管	72 J I S F R P M F R P M	A5350(強化プラスチック複合管) K1111-2006 (強化プラスチック複合管内圧管 ファイブトリンディング成形法) K2111-2006 (強化プラスチック複合管内圧管 遠心力成形法)		
たわみ率	締 固 め 程 度	10 なし	⊕ 3%	⊕ 5%	施工延長おおむね 50 mにつき1箇所の割 合で測定する。 上記未満は2箇所測 定する。 測定は定尺管の中央 部とする。 測定時期は管据付時 (接合完了後)、管頂埋 戻時及び埋戻完了時 とする。 なお、「埋戻完了」と は、特に指示がない場 合は舗装(表層、上層 路盤、下層路盤)を除 いた埋戻完了時点と する。
		20 I	⊕ 3%	⊕ 5%	
		21 I 礫質土	⊕ 4%	⊕ 5%	
		30 II	⊕ 4%	⊕ 5%	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要								
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2、3-5)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-5)	構造図に朱記、併記するもの										
			<p>管据付時の測定の際、以下の手順で天・地・左・右の各測定基準点を固定し、以後同一点でたわみ量を測定する。</p> <p>① 測定しようとする管の管中央位置を管底及び左右管側にペイントでマーキングする。</p> <p>② その位置に水準器を下図のように水平におく。その後、水準器の中央点を管にマーキングする。</p> <p>③ ②でマーキングした点に測定棒を立て、測定棒に水準器を添わせて測定棒を垂直にし、その状態で測定棒をスライドさせ測定棒と管の接点をマーキングする(管天測点となる)。</p> <p>④ ①でマーキングした位置(左右管側)に下図のように水準器を使って水平点をマーキングする。</p>									
			<p>○ 測定器具例 (インナーゲージ)</p> <p>パイプ① アルミパイプ外径φ35mm厚み3mm パイプ② アルミパイプ外径φ28mm厚み3mm</p> <p>スケール取付け部 1mm単位スケール</p>									
各測定時期で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—	<p>たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (Dh + t)]$ 又は $[2R - (Dv + t)]$ 2R : 管厚中心直径 t : 管厚</p>	<p>管径 900mm 以上に適用する。矢板施工の場合は管据付時、矢板引抜き時及び埋戻完了時に測定する。</p> <p>締固め程度は次のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>締固めの程度</th> <th>仕上り程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>締固めなし</td> <td>締まった状態を指し、いわゆる膨張状態ではない</td> </tr> <tr> <td>締固め I</td> <td>締固め度の 85%以上</td> </tr> <tr> <td>締固め II</td> <td>締固め度の 90%以上</td> </tr> </tbody> </table>	締固めの程度	仕上り程度	締固めなし	締まった状態を指し、いわゆる膨張状態ではない	締固め I	締固め度の 85%以上	締固め II	締固め度の 90%以上
締固めの程度	仕上り程度											
締固めなし	締まった状態を指し、いわゆる膨張状態ではない											
締固め I	締固め度の 85%以上											
締固め II	締固め度の 90%以上											

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
8 管 水 路 工 事	80 シールド工 事 (一次覆工)	10 基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)、たわみ率につ いては施工延長おおむ ね 50mにつき1箇所 の割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに1箇所の割合で測 定する。 上記未満は2箇所測定 する。
	コンクリート セグメント	20 中心線の ズレ (e)	直線部 ⊕ 65 曲線部 ⊕ 100	直線部 ⊕ 100 曲線部 ⊕ 150	
	鋼製 セグメント	60 施工延長 61 "		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	
		たわみ率	⊕ 3%	⊕ 5%	
81 シールド工 事 (二次覆工) 既製管覆工 82 推進工事	10 基準高(V)	既製管挿入工 ⊕ 20 推進工事 ⊕ 30	⊕ 30 ⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき1箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに1箇所の割合で測 定する。 上記未満は2箇所測定 する。 ジョイント間隔につい ては1本毎に測定する。	
	20 中心線の ズレ (e)	⊕ 65	⊕ 100		
	30~59 ジョイン ト間隔 (Z)	別表イ、ウ及び別表エ 参照	別表イ、ウ及び別 表エ参照		
	60 施工延長 61 "		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200		
	たわみ率	⊕ 3%	⊕ 5%		施工延長おおむね 50m につき1箇所を測定す る。 上記未満は2箇所測定 する。 測定時期は、管据付時、 注入完了時とする。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2、3-4、3-6)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-4、3-6)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレ、たわみ率で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>基準高 (V) は、V_1 を測定し管理する。 たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (Dh + t)]$ 又は $[2R - (Dv + t)]$ $2R$: 管厚中心直径 t : 管厚</p>	V の測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は完了時とする。
基準高、中心線のズレ、たわみ率で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置</p>  <p>基準高 (V) は、V_1 を測定し管理する。 たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (Dh + t)]$ 又は $[2R - (Dv + t)]$ $2R$: 管厚中心直径 t : 管厚</p>	V の測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は完了時とする。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
9 畑 か ん 施 設 工 事	10 スプリンク ラー	10 埋設深(H)	⊕ 65 ⊖ 35	⊖ 50	構造図の寸法標示箇所 を測定する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
埋設深で 20 点以上のも の	左記のもの で 20 点未満 のもの	—		

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
10 橋 梁 工 事	10 コンクリート桁	10 幅 (B)	上幅 (B ₁) ⊕ 7 ⊖ 3	⊕ 10 ⊖ 5	幅、高さについては桁の両端部、中央部の3箇所を全桁数測定する。桁長は各桁で、横方向の最大曲がりについてはプレストレスング後に、全桁数測定する。
	〔ポストテンション桁〕	11 〃	下幅 (B ₂ 、B ₃) ⊕ 3	⊕ 5	
		20 高さ(H)	⊕ 7 ⊖ 3	⊕ 10 ⊖ 5	
		30 桁長(L)	⊕ 10	⊕ 15	
		40 横方向の最大曲がり(δ) (桁長10.5m未満)		1.5L-6	
	41 横方向の最大曲がり(δ) (桁長10.5m以上)		10		
20鉄筋コンクリート床版工	10 基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20	基準高は1径間当たり2箇所(支点付近)で測定する。 幅は1径間当たり3箇所測定する。 厚さは、おおむね10㎡に1箇所の割合で測定する。	
	20 幅 (B)	⊕ 20	⊕ 30		
	30 厚さ(T)	⊕ 13 ⊖ 7	⊕ 20 ⊖ 10		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	幅、高さ、桁長、横方向の最大曲がり	<p>L : 桁長 (m)</p>	
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ		コンクリート橋に適用する。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
10 橋 梁 工 事	30 鉄筋コン クリート 高欄及び 地覆工	10 高欄幅 (B)	⊕ 13	⊖ 20	1 径間当たり両端と中 央部の両側を測定する。
		20 高欄高さ (H)	⊕ 20	⊖ 30	
		30 地覆幅 (B)	⊕ 13	⊖ 20	
		40 地覆高さ (H)	⊕ 13	⊖ 20	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	高欄幅、高欄高さ、地覆幅、地覆高さ		

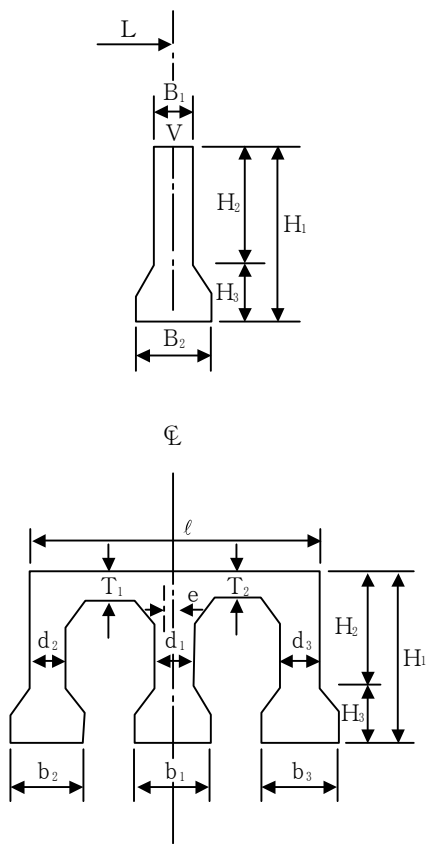
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
11 橋 梁 下 部 工 事	10 橋台工			橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。
	敷 幅 (B)	⊕ 30	⊖ 50	
	20 控壁の厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
	30 高 さ (H)	⊕ 30	⊖ 50	
	40 中心線のズレ (e)	⊕ 30	⊕ 50	
	50 天端長(L ₁)	⊕ 30	⊖ 50	
	60 敷 長(L ₂)	⊕ 30	⊖ 50	
	70 橋壁間距離 (L ₃)	⊕ 20	⊕ 30	
80 橋台沓部	「1 共通工事の1 制度を要するもの」の項に定めるところによる	同 左	同 左	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	敷幅、控壁の厚さ、高さ、中心線のズレ、天端長、敷長、胸壁間距離		2 スパン以上の場合の胸壁間距離は「20 及び 30 橋脚工」の橋脚中心間距離において管理する。
同 左	同 左	同 左	同 左	

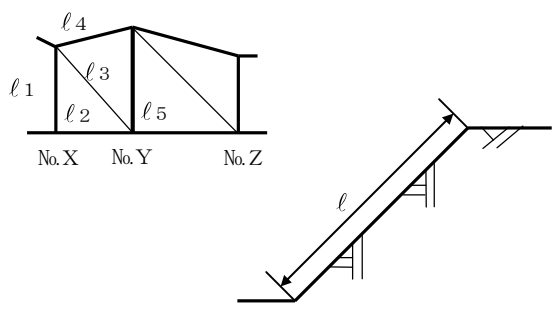
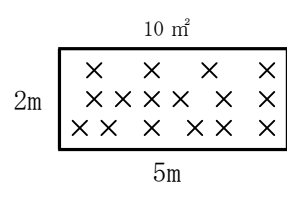
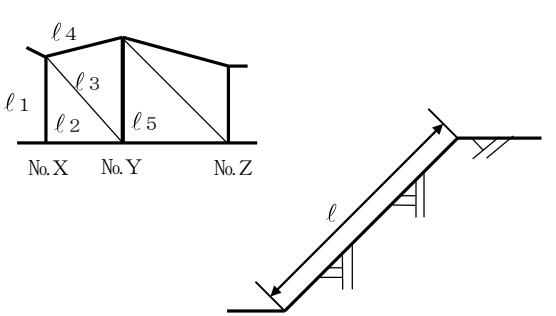
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
11 橋 梁 下 部 工 事	20 橋脚工	10 基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20	橋軸方向の断面寸法は 中央及び両端部で測定 し、その他は構造図の寸 法表示箇所を測定する。
	〔張出式 重力式 半重力式〕	20 天端長(l_1)	⊕ 30	⊖ 50	
		30 敷長(l_2)	⊕ 30	⊖ 50	
		40 天端幅(B_1)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		50 敷幅(B_2)	⊕ 30	⊖ 50	
		60 高 さ(H)	⊕ 30	⊖ 50	
		70 橋脚中心 間距離 (L)	⊕ 20	⊕ 30	
		80 中心線の ズレ (e)	⊕ 30	⊕ 50	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、天端幅、敷幅、高さ、中心線のズレ、天端長、敷長、橋脚中心間距離	<p>The diagram illustrates two bridge pier cross-sections. The top diagram shows dimensions B_1 (top width), B_2 (base width), B_3 (top width of the lower section), B_4 (base width of the lower section), H_1 (total height), H_2 (height of the upper section), H_3 (height of the lower section), H_4 (height of the lower section's upper part), and L (width of the approach). The bottom diagram shows dimensions l_1 (top width), l_2 (base width), l_3 (top width of the lower section), l_4 (base width of the lower section), e (offset), H_1 (total height), H_2 (height of the upper section), H_3 (height of the lower section), H_4 (height of the lower section's upper part), and center lines (C).</p>	

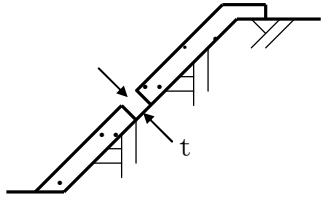
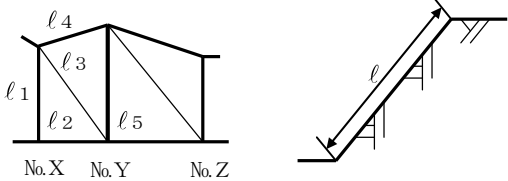
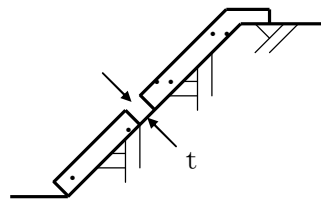
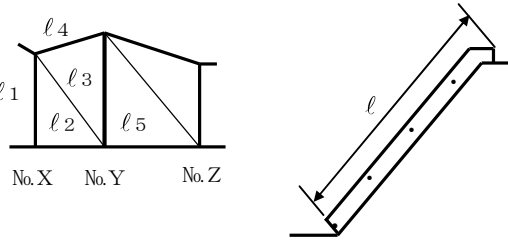
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
11 橋 梁 下 部 工 事	30 橋脚工 (ラーメン式)	10 基準高(V)	± 15	± 20	橋軸方向の断面寸法は 中央及び両端部で測定 し、その他は構造図の寸 法表示箇所を測定する。
		20 天端長(ℓ)	± 15	± 20	
		30 天 端 幅 (B_1)	± 20 - 13	- 20	
		40 中間幅(d)	± 15	- 20	
		50 基礎幅 (B_2 、b)	± 30	- 50	
		60 高さ(H)	± 30	- 50	
		70 厚さ(T)	± 20 - 13	- 20	
		80 橋脚中心 間 距 離 (L)	± 20	± 30	
		90 中心線の ズレ (e)	± 30	± 50	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、天端長、天端幅、中間幅、基礎幅、高さ、厚さ、橋脚中心間距離、中心線のズレ		

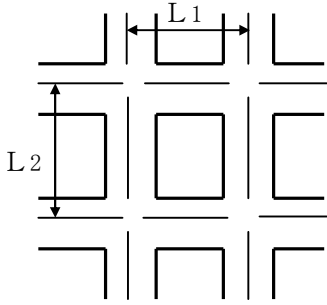
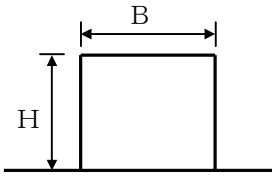
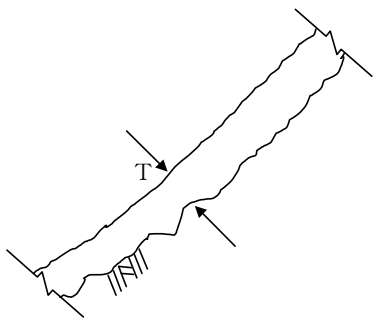
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
12 法 面 保 護 工 事	10 ラス張 11 植生マット 12 植生シート 13 繊維ネット 14 張芝 15 人工張芝	10 面 積(A)	施工面積 ≥設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。
	20 アンカー ピン数		ラス張 φ 9 (D10) × L = 200 mm 1.5 本/㎡以上 φ 16 (D16) × L = 400 mm 0.3 本/㎡以上	ラス張は 200 ㎡に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	21 アンカー ピン及び 止め釘		植生マット、繊維ネット 肥料袋付 6 本/㎡以上 肥料袋無 3 本/㎡以上	植生マット及び繊維ネ ットは 500 ㎡に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	20 種子散布	10 面 積(A)	施工面積 ≥設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	展開図及び測線長		l_n : 測線をいう。
—	測定値を記入	—		(参考) 規格値に示す値は標準であることから、工法により標準本数が異なる場合は、別途監督職員と協議する。
—	—	展開図及び測線長		l_n : 測線をいう。

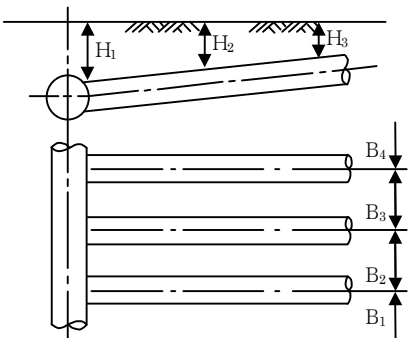
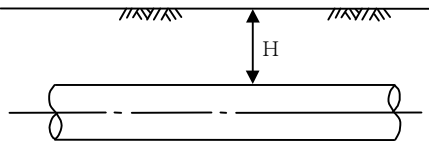
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
12 法 面 保 護 工 事	30 客土吹付	10 厚 さ(T)	平均厚さ ≥設計厚さ ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上とする。	施工面積 500 m ² に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		20 面 積(A)	施工面積 ≥設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。
	40 植生基材吹付	10 厚 さ(T)	平均厚さ ≥設計厚さ 測定値は 設計厚 5 cm未満 ⊖ 10% " 5 cm以上 ⊖ 20% ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上とする。	施工面積 200 m ² に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		20 面 積(A)	施工面積 ≥設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		1 吹付直後の厚さとする。 2 岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。 3 設計吹付厚さ5 cm以上には適用しない。
—	—	展開図及び測線長		l_n : 測線をいう。
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		1 吹付直後の厚さとする。 2 岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。
—	—	展開図及び測線長		l_n : 測線をいう。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
12 法 面 保 護 工 事	50 吹付枠				
	10 梁延長		施工延長 ≥設計延長	全施工延長について展開図により測定する。	
	20 梁 間 隔 (L)		⊕ L/10	施工面積 200 m ² に 1 箇所 の割合で測定する。	
	30 梁断面(H) (B)		⊖ 20	施工面積 200 m ² に 1 箇所 の割合で測定する。	
	コンクリート 吹付 モルタル吹付 け	吹付厚さ (T)	設計厚 5 cm未満 ⊕ 7 設計厚 5 cm以上 ⊕ 15	⊖ 10 ⊖ 20 (ただし、吹付面に凸凹 がある場合の最小吹付 厚は、設計厚の 50%以上 とし、平均厚は設計厚以上)	施工面積おおむね 100 m ² につき 1 箇所の割合 でコア採取又は削孔な どして測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	展開図に朱記、併記する		
間隔で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
断面で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
厚さで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		施工端部、岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準		
13 暗 渠 排 水 工 事	10 吸水渠	10 布設深(H)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	上、下流端の2箇所を測定する。 ただし、1本の布設長がおおむね100m以上のときは、中間点を加えた3箇所を測定する。	
		20 間隔(B)	⊕ 500	⊕ 750		
		30 施工延長 31 //		⊖ 0.2%、 ただし延長 500m以下⊖1,000		
		20 集水渠 (支線) 21 導水渠 (幹線)	10 布設深(H)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。
		20 施工延長 21 //		⊖ 0.2%、 ただし延長 500m以下⊖1,000		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
布設深、間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>The diagram illustrates two measurement scenarios. The top part shows a pipe installed at an angle below a ground surface. Three vertical arrows labeled H₁, H₂, and H₃ indicate the depth from the ground surface to the pipe at different points. The bottom part shows a vertical pipe with four horizontal measurement points labeled B₁, B₂, B₃, and B₄ from bottom to top, representing different depths or positions along the pipe's length.</p>	
布設深で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>The diagram shows a horizontal pipe installed below a ground surface. A single vertical arrow labeled H indicates the depth from the ground surface to the pipe.</p>	

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準		
14 フ イ ル ダ ム 工 事	10 監査廊 (暗渠タイプ)	10 基準高 (V)	± 20	± 30	1. 基準高、幅、厚さ、高さについては1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 2. 厚さはコンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑧の各点で測定する。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。	
		20 幅 (B)	⊕ 25 ⊖ 15 ただし、	⊖ 25		
		21 //	B ₂ 、B ₃ ⊖ 15			
		30 厚さ (T)	⊖ 13	⊖ 20		
		40 高さ (H)	± 25 ただし、	⊖ 40		
		41 //	H ₂ ⊖ 25			
		50 中心線の ズレ (e)	直線部 ± 50	直線部 ± 75		
	51 //	曲線部 ± 100	曲線部 ± 150			
	60 スパン長	直線部 ± 13	直線部 ± 20			
	61 //	曲線部 ± 20	曲線部 ± 30			
	70 施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長			
	71 //		150m未満 ⊖ 150			
	20 堤体盛土	ゾ ン 幅	10 遮水 ゾーン		ℓ ₁ ⊕ 500 ⊖ 0	ゾーン幅については施工延長おおむね20mにつき1箇所の割合で測定する。
			20 フィルター ゾーン		ℓ ₂ ⊕ 500 ⊖ 0 有効幅Bは設計以上	
30 トランジ ョンゾ ン				ℓ ₃ ⊕ 1,000 ⊖ 500		
40 ロック ゾーン				ℓ ₄ ⊕ 1,000 ⊖ 0 有効幅Bは設計以上		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		
ゾーン幅で 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—	<p>注) ゾーン区分 C : 遮水ゾーン F : フィルターゾーン T : トランジションゾーン R : ロックゾーン</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 堤体表面張立(張石)状態に適用する。 2 ゾーン幅とはダム中心線から設計境界線までの距離(l)と各ゾーン単独有効幅(B)をいう。 3 管理基準値については別途定めるものとする。 4 各リフト毎の盛立高の管理基準値については別途定めるものとする。

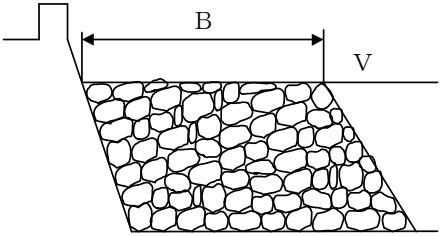
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準
14 フ イ ル ダ ム 工 事	30 洪水吐			基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所の割合で測定する。
	10 基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	
	20 幅 (B)	⊕ 25 ⊖ 15	⊖ 25	
	30 厚 さ(T) 31 "	⊕ 20 ⊖ 13 ただし、 T ₁ ~T ₉ ⊖ 13	⊖ 20	
	40 高 さ(H)	⊕ 15	⊖ 25	
	50 中心線の ズレ (e) 51 "	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50 曲線部 ⊕ 100	
	60 スパン長 61 "	直線部 ⊕ 13 曲線部 ⊕ 20	直線部 ⊕ 20 曲線部 ⊕ 30	
70 施工延長 71 "		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	<p style="text-align: center;">*斜線部はインバート</p>	インバートと側壁が一体構造の場合、測定箇所は別途定めるものとする。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
15 頭 首 工 工 事	10 本 体	10 基準高 (V)	⊕ 20	⊕ 30	構造図の寸法表示箇所 を測定する。
	20 幅 (B)	天端幅等 ⊕ 20	⊖ 30		
	21 //	エプロン部 ⊕ 40	⊖ 60		
	30 厚さ (T)	⊕ 30 ⊖ 20 導流壁、エプロン部 等	⊖ 30		
	40 高さ (H)	⊕ 30 ⊖ 20 導流壁等	⊖ 30		
	50 長さ (L)	⊕ 100 ⊖ 65 導流壁、エプロン部	⊖ 100		
20 護床プロ ック (異形ブロック)	10 基準高 (V)	⊕ 100	⊕ 150	基準高については施工 面積 100 m ² につき 1 箇 所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。	
	20 面積 (A)		⊖ 0.2%		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ		
基準高で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		

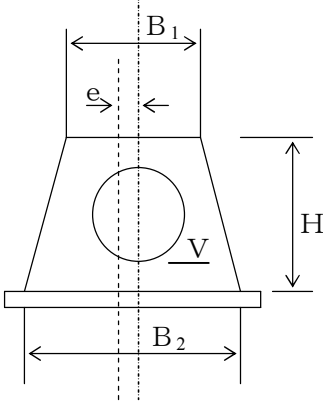
工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
16 海 岸 河 川 工 事	10 捨石工 11 消波ブロッ ク	10 基準高(V)	⊕ 200 捨石工は特別仕様書に よる	⊖ 300 捨石工は特別仕様 書による	基準高、幅については施 工延長おおむね 50mに つき 1箇所割合で測 定する。
		20 幅 (B)	⊕ 200	⊖ 300	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅で20点以上のももの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの		

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
17 た め 池 改 修 工 事	10 堤体工	10 基準高(V)	± 65	± 100	線的なものについては 施工延長おおむね 20m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		20 堤幅 (W)	天端幅、小段幅等 ⊖ 65 (鋼土 ⊕ 300、⊖ 0)	⊖ 100	
		30 法 長(L)	⊖ 65	⊖ 100	
		40 施工延長		⊖ 200	
20 洪水吐工	10 基準高(V)	± 20	± 30	基準高、幅、厚さ、高さ、 中心線のズレについては 施工延長 1 スパンに つき 1 箇所の割合で測 定する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 表示箇所を測定する。	
	20 幅 (B)	± 20	± 30		
	30 厚さ (T)	± 13	± 20		
	40 高さ (H)	± 20	± 30		
	50 中心線の ズレ (e)	直線部 ± 35	直線部 ± 50		
	51 "	曲線部 ± 65	曲線部 ± 100		
	60 スパン長 (L)	直線部 ± 13	直線部 ± 20		
	61 "	曲線部 ± 20	曲線部 ± 30		
70 施工延長 (又は長さ)		⊖ 150			

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、堤幅、法長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの		<ol style="list-style-type: none"> 1 鋼土の幅は盛土高 1m 毎に管理する。 2 測定は原則として、水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。 3 出来形測定と写真は同一箇所で行う。 4 出来形図は横断図面を利用して作成する。
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	箇所単位の構造物について、基準高、幅、厚さ、高さ		スパン長の標準を 9 m とした場合。

工 種	項 目	管理基準値(mm) (参 考)	規格値(mm)	測 定 基 準	
17 た め 池 改 修 工 事	30 樋管工同上 付 帯 構 造 物 (土砂吐ゲート等)	10 基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さ、 中心線のズレについては 施工延長 10mにつき 1 箇所割合で測定する。 ジョイント間隔については、 1 本毎に測定する。 箇所単位のものについては 適宜構造図の寸法表示箇所 を測定する。
		20 幅 (B)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		30 厚さ (T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		40 高さ (H)	⊕ 13	⊖ 20	
		50 中心線の ズレ (e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
		51 "	曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
	60 施工延長		⊖ 150		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、ジョイント間隔で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	箇所単位の構造物について、基準高、幅、厚さ、高さ		<ol style="list-style-type: none"> 1 基準高(V)は管底を原則とする。 2 コンクリート二次製品使用の場合である。 3 底樋がトンネルの場合は、土木工事施工管理基準 5 水路トンネル工事の 10 水路トンネルに準ずる。 4 斜樋等付帯構造物は土木工事施工管理基準 1 共通工事の 90 コンクリート付帯構造物に準ずる。ただし、基準高(V)は、取水孔(ゲート中心)の標高とし、高さ(H)は斜面直角方向とする。

別表

別表ア 基礎杭打工 偏心管理基準値

(単位：mm)

項目 コード	杭 径	木 杭		既製コンクリート杭	
		管理基準値 (参 考)	規 格 値	管理基準値 (参 考)	規 格 値
20	60	60	225		
21	90	90	225		
22	120	120	225		
23	150	150	225		
24	180	180	225		
25	210	210	225		
26	200			33	50
27	250			41	62
28	300			50	75
29	350			58	87
30	400			66	100
31	450			66	100
32	500			66	100
33	550			—	—
34	600			66	100
35	700			66	100
36	800			66	100
37	900				
38	1,000				
39	1,200				
40	1,500				
41	1,800				
42	2,000				
43	2,500				
44	3,000				

(単位：mm)

項目 コード	杭 径	鋼 管 杭		場 所 打 杭	
		管理基準値 (参考)	規 格 値	管理基準値 (参考)	規 格 値
20	60				
21	90				
22	120				
23	150				
24	180				
25	210				
26	200				
27	250				
28	300				
29	350				
30	400	66	100		
31	450	66	100		
32	500	66	100		
33	550	66	100		
34	600	66	100		
35	700	66	100		
36	800	66	100	66	100
37	900	66	100	—	—
38	1,000	66	100	66	100
39	1,200			66	100
40	1,500			66	100
41	1,800			66	100
42	2,000			66	100
43	2,500			66	100
44	3,000			66	100

別表イ 管水路（遠心力鉄筋コンクリート管）のジョイント間隔管理基準値

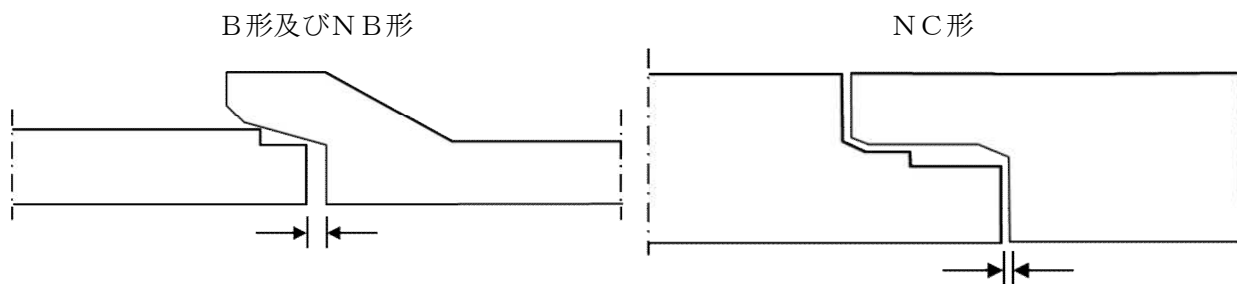
(単位：mm)

呼び径 (mm)	J I S A 5372 R C管 (B形管)				J I S A 5372 R C管 (NB形管)			
	管理基準値 (参考)	規 格 値				管理基準値 (参考)	規 格 値	
		8 管水路工事 良質地盤		8 管水路工事 軟弱地盤				
150	+13 0	+20 0	+11 0		+15 0	+23 0		
200	+13 0	+20 0	+11 0		+15 0	+23 0		
250	+13 0	+20 0	+11 0		+15 0	+23 0		
300	+12 0	+18 0	+10 0		+15 0	+23 0		
350	+12 0	+18 0	+10 0		+15 0	+23 0		
400	+14 0	+21 0	+11 0		+19 0	+29 0		
450	+14 0	+21 0	+11 0		+19 0	+29 0		
500	+14 0	+21 0	+11 0		+19 0	+29 0		
600	+15 0	+23 0	+13 0		+19 0	+29 0		
700	+14 0	+21 0	+12 0		+19 0	+29 0		
800	+16 0	+24 0	+13 0		+19 0	+29 0		
900	+17 0	+26 0	+15 0		+19 0	+29 0		
1000	+21 0	+32 0	+18 0		—	—		
1100	+22 0	+33 0	+19 0		—	—		
1200	+23 0	+35 0	+21 0		—	—		
1350	+24 0	+37 0	+22 0		—	—		

- 注) 1. 管理基準値(参考) は接合時の値であり、4箇所の平均値とする。
 2. 規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm以下の場合は、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 800 mm以上に適用する。
 なお、「埋戻後」とは、特に指示のない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
 4. 標準値は目地処理のため施工上必要な、本来開くべきジョイント間隔値を示している。規格値及び管理基準値は下図に示す位置を測定するものとする。
 5. 管の外面から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示す a' b' c' d' とする。

<参考> ジョイント間隔測定位置を以下に示す。

- (1) 内面から計測する場合



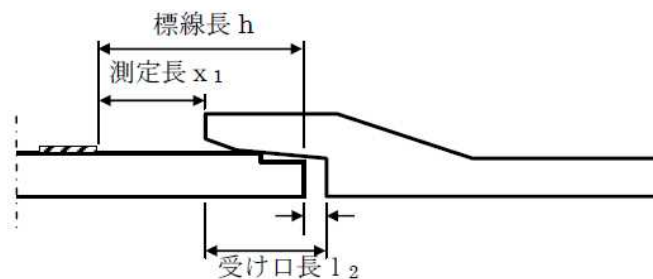
(単位：mm)

J I S A 5372 R C管(NC形管)					
呼び径 (mm)	標準値	管理基準値 (参考)		規格値	
1,500	5	+24	+5	+33	+5
1,650	5	+24	+5	+33	+5
1,800	5	+24	+5	+33	+5
2,000	5	+24	+5	+33	+5
2,200	5	+24	+5	+33	+5
2,400	5	+27	+5	+38	+5
2,600	5	+27	+5	+38	+5
2,800	5	+27	+5	+38	+5
3,000	5	+27	+5	+38	+5

(2) 外面から計測する場合

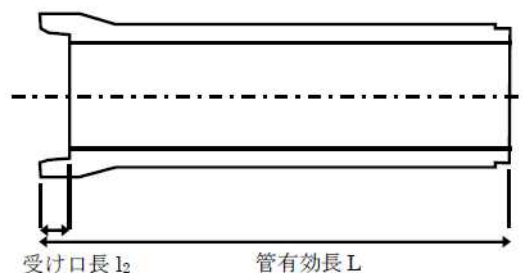
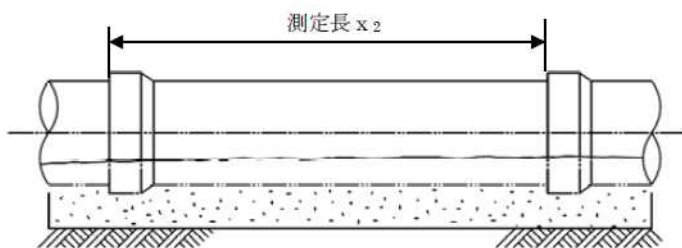
1) 標線による計測

ジョイント間隔 = 受け口長 l_2 - (標線長 h - 側線長 X_1)



2) 標線によらない計測 (参考)

ジョイント間隔 = 受け口長 l_2 - (管有効長 L - 測定長 X_2)



別表ウ 管水路（ダクトイル鋳鉄管）ジョイント間隔管理基準値

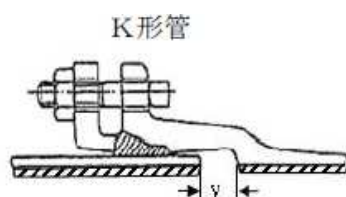
（単位：mm）

規 格	J I S G 5526・5527 及び J D P A G 1027		J I S G 5526・5527 及び J D P A G 1027・1029	
	8 管水路工事 K形		8 管水路工事 T形（直管）	
呼び径（mm）	管理基準値 （参 考）	規格値	管理基準値 （参 考）	規格値
75	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
100	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
150	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
200	+14 0	+19 0	+10 0	+14 0
250	+14 0	+19 0	+10 0	+14 0
300	+14 0	+19 0	+16 0	+24 0
350	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
400	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
450	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
500	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
600	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
700	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
800	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
900	+22 0	+31 0	+25 0	+40 0
1,000	+25 0	+36 0	+25 0	+40 0
1,100	+25 0	+36 0	+25 0	+40 0
1,200	+25 0	+36 0	+25 0	+50 0
1,350	+25 0	+36 0	+25 0	+50 0
1,500	+25 0	+36 0	+25 0	+60 0
1,600	+25 0	+40 0	+25 0	+70 0
1,650	+25 0	+45 0	+25 0	+70 0
1,800	+25 0	+45 0	+25 0	+80 0
2,000	+25 0	+50 0	+25 0	+90 0
2,100	+25 0	+55 0	- -	- -
2,200	+25 0	+55 0	- -	- -
2,400	+25 0	+60 0	- -	- -
2,600	+25 0	+70 0	- -	- -

- 注) 1. 管理基準値(参考)は接合時の値であり、4箇所 の平均値とする。
 2. 規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合は、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。

なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。

4. 管の外から測定する場合の測定位置は施工管理記録様式に示す a' b' c' d' とする。
 5. ダクトイル鋳鉄管のうち、K形管・T形管のジョイント間隔測定位置及びU形管の標準値は下図の y 寸法である。y の測定位置は、鋳鉄層とモルタルライニング層の境界部を目安とする。



(単位：mm)

規 格	JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027・1029				JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1029				
	8 管水路工事 T 形				8 管水路工事 U 形				
呼び径 (mm)	管理基準値 (参 考)		規格値		標準値	管理基準値 (参考)		規格値	
75	+11	0	+16	0	—	—	—	—	—
100	+11	0	+17	0	—	—	—	—	—
150	+11	0	+18	0	—	—	—	—	—
200	+11	0	+16	0	—	—	—	—	—
250	+11	0	+14	0	—	—	—	—	—
300	—	—	—	—	—	—	—	—	—
350	—	—	—	—	—	—	—	—	—
400	—	—	—	—	—	—	—	—	—
450	—	—	—	—	—	—	—	—	—
500	—	—	—	—	—	—	—	—	—
600	—	—	—	—	—	—	—	—	—
700	—	—	—	—	105	+23	-5	+32	-5
800	—	—	—	—	105	+23	-5	+32	-5
900	—	—	—	—	105	+23	-5	+32	-5
1,000	—	—	—	—	105	+23	-5	+33	-5
1,100	—	—	—	—	105	+23	-5	+33	-5
1,200	—	—	—	—	105	+23	-5	+33	-5
1,350	—	—	—	—	105	+23	-5	+35	-5
1,500	—	—	—	—	105	+23	-5	+35	-5
1,600	—	—	—	—	115	+24	-5	+33	-5
1,650	—	—	—	—	115	+24	-5	+33	-5
1,800	—	—	—	—	115	+24	-5	+33	-5
2,000	—	—	—	—	115	+24	-5	+36	-5
2,100	—	—	—	—	115	+24	-5	+36	-5
2,200	—	—	—	—	115	+24	-5	+36	-5
2,400	—	—	—	—	115	+24	-5	+36	-5
2,600	—	—	—	—	130	+24	-5	+36	-5

注) 6. JDPAG 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

- ・ T 形及び T 形用継ぎ輪：300～2,000、K 形：300～2,600

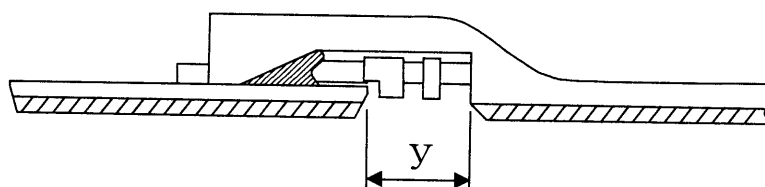
JDPAG 1029 (推進工法用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

- ・ T 形：250～700、U 形：800～2,600

JDPAG 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) の T 形用継ぎ輪のジョイント間隔は、JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) の K 形に準じる。

7. JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) の K 型、U 型のジョイント間隔は JIS G 5526 (ダクタイル鋳鉄管) の K 型、U 型に準じる。
8. 標準値は継手構造上、本来開くべきジョイント間隔値を示しており、規格値及び管理基準値は標準値に対する値を示している。

U 形管



別表エ 管水路（強化プラスチック複合管）ジョイント間隔管理基準値

（単位：mm）

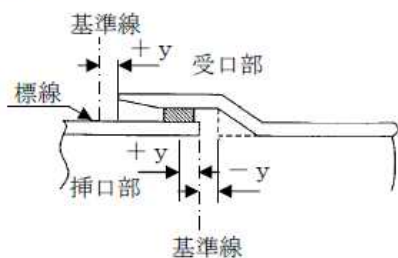
規格	J I S A 5350						
	B 形 及 び T 形						
呼び径 (mm)	標準値	管理基準値 (参考)		規格値			
				良質地盤	軟弱地盤		
200	0	+10	-5(0)	+33	-33(0)	+22	-22(0)
250	0	+10	-5(0)	+33	-33(0)	+22	-22(0)
300	0	+10	-5(0)	+38	-38(0)	+25	-25(0)
350	0	+10	-5(0)	+38	-38(0)	+25	-25(0)
400	0	+10	-5(0)	+43	-43(0)	+28	-28(0)
450	0	+10	-5(0)	+43	-43(0)	+28	-28(0)
500	0	+15	-10(0)	+53	-52(0)	+35	-34(0)
600	0	+15	-10(0)	+53	-52(0)	+35	-34(0)
700	0	+15	-10(0)	+53	-52(0)	+35	-34(0)
800	0	+15	-10(0)	+53	-52(0)	+35	-34(0)
900	0	+15	-10(0)	+53	-52(0)	+35	-34(0)
1,000	0	+20	-15(0)	+53	-51(0)	+35	-33(0)
1,100	0	+20	-15(0)	+53	-51(0)	+35	-33(0)
1,200	0	+20	-15(0)	+53	-51(0)	+35	-33(0)
1,350	0	+20	-15(0)	+53	-51(0)	+35	-33(0)
1,500	0	+20	-15(0)	+53	-51(0)	+35	-33(0)
1,650	0	+25	-20(0)	+80	-77(0)	+53	-50(0)
1,800	0	+25	-20(0)	+80	-77(0)	+53	-50(0)
2,000	0	+25	-20(0)	+95	-92(0)	+63	-60(0)
2,200	0	+25	-20(0)	+95	-92(0)	+63	-60(0)
2,400	0	+25	-20(0)	+113	-110(0)	+75	-72(0)
2,600	0	+25	-20(0)	+113	-110(0)	+75	-72(0)
2,800	0	+25	-20(0)	+128	-125(0)	+85	-82(0)
3,000	0	+25	-20(0)	+128	-125(0)	+85	-82(0)

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所 の平均値とする。
2. 規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合は、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
- なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
4. 管の外側から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示す a' b' c' d' とする。
5. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法 y である。なお、基準線に対し抜け出し側を (+)、入り込み側を (-) とする。また、管理基準値等のうち () 内数値は、点線で示した形状の管に適用する。
6. D形の場合は、受口側と指口側を各々測定する。

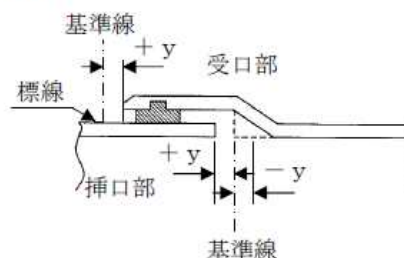
(単位：mm)

規格	J I S A 5350						
	C 形						
呼び径 (mm)	標準値	管理基準値 (参考)		規格値			
				175		176	
				良質地盤		軟弱地盤	
200	0	+10	0	+33	0	+22	0
250	0	+10	0	+33	0	+22	0
300	0	+10	0	+38	0	+25	0
350	0	+10	0	+38	0	+25	0
400	0	+10	0	+43	0	+28	0
450	0	+10	0	+43	0	+28	0
500	0	+15	0	+53	0	+35	0
600	0	+15	0	+53	0	+35	0
700	0	+15	0	+53	0	+35	0
800	0	+15	0	+53	0	+35	0
900	0	+15	0	+53	0	+35	0
1,000	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,100	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,200	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,350	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,500	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,650	0	+25	0	+80	0	+53	0
1,800	0	+25	0	+80	0	+53	0
2,000	0	+25	0	+95	0	+63	0
2,200	0	+25	0	+95	0	+63	0
2,400	0	+25	0	+113	0	+75	0
2,600	—	—	—	—	—	—	—
2,800	—	—	—	—	—	—	—
3,000	—	—	—	—	—	—	—

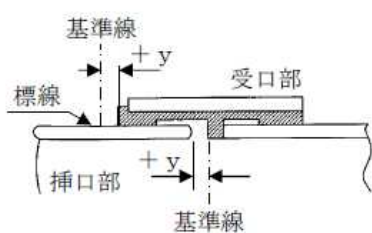
B形



T形

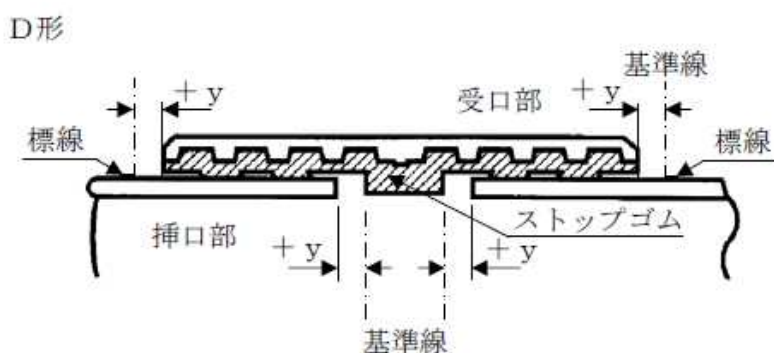


C形



(単位：mm)

規格	J I S A 5350						
	D 形 (S 6 0)						
呼び径 (mm)	標準値	管理基準値 (参考)		規格値			
				良質地盤		軟弱地盤	
200	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
250	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
300	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
350	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
400	0	+5	0	+35	-3	+25	-3
450	0	+5	0	+35	-3	+25	-3
500	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
600	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
700	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
800	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
900	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,000	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,100	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,200	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,350	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,500	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
1,650	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
1,800	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
2,000	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
2,200	0	+30	0	+50	-5	+40	-5
2,400	0	+30	0	+50	-5	+40	-5



※ 管がストップゴムをつぶしている場合は(-)とする。なお、その場合受口側の値を0とする。

項 目	判 定 基 準
1. ルートの溶込み不良	目違いのない部分の溶込み不良は、1個の長さ20mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ25mm以下を合格とする。
2. 目違いによる溶込み不良	ルートの片側の角が露出している（又は溶融されていない）とき、1個の長さ40mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長70mm以下を合格とする。
3. 内面へこみ	内面へこみは、その部分の写真濃度がこれに接する母材部分の写真濃度を超えない場合は長さに関係なく合格とするが、超える場合には5の溶落ちと同様に取り扱う。
4. 融合不良	母材と溶接金属との間の融合不良は、1個の長さ20mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ25mm以下を合格とする。溶接パス間の融合不良は、1個の長さ20mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ30mm以下を合格とする。
5. 溶落ち	溶落ちは、いかなる方向に測った寸法も1個につき6mm又は管の肉厚のいずれか小さい方を超えることなく、連続した溶接長300mm当たり最大寸法の合計長さ12mm以下を合格とする。
6. 細長いスラグ巻込み	細長いスラグ巻込みは、1個の長さ20mm以下、幅1.5mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ30mm以下を合格とする。平行に並んだスラグ巻込みは、その間隔が1mmを超えていればそれぞれ独立したきずとみなす。
7. 孤立したスラグ巻込み	孤立したスラグ巻込みは、1個の長さ6mm以下、幅3mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ12mm以下を合格とする。
8. タングステン巻込み	タングステン巻込みは、J I S Z 3104 付属書4の第4種のきずの像の分類の4類以外を合格とする。
9. ブローホール及びこれに類する丸みを帯びたきず	ブローホール及びこれに類する丸みを帯びたきずは、J I S Z 3104 付属書4の第1種のきずの像の分類の4類以外を合格とする。
10. 虫状気孔	虫状気孔（パイプ）は、J I S Z 3104 付属書4の第2種のきずの像の分類の4類以外を合格とする。
11. 中空ビード	中空ビードは、1個の長さ10mm以下、連続した溶接長300mm当たり合計長さ50mm以下で、長さ6mmを超えるものは、50mm以上離れていなければならない。
12. 割れ	割れは、すべて不合格とする。
13. きずの集積	1から11までに掲げるきずの長さの和が管の円周長さの8%以下で、かつ、連続した溶接長300mm当たり50mm以下を合格とする。ただし2に掲げるきずを除く。
14. アンダカット	内面のアンダカットは、1個の長さは50mm、合計長さは管の円周長さの15%を超えてはならない。
15. きずの写真濃度	(a) 透過写真上の大きさと合格するきずでも、写真濃度が母材部の写真濃度より著しく高い場合には、不合格とする。 (b) 内面のビードの写真濃度が著しく低い場合には、不合格とする。

別表カ 塗覆装の方式及びその厚さ

種 別	塗 覆 装 方 式	最小厚さ (mm)
直管 テーパ付き 直管 異形管	【内面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管－第4部：内面エポキシ樹脂塗装 (JIS G 3443 - 4) 溶剤形エポキシ樹脂塗装	0.5 mm以上 (「農業用プラスチック被覆鋼管 (WSP A-101-2009)」による)
	【外面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管－第3部：長寿命形外面プラスチック被覆 (JIS G 3443 - 3)	2.0 mm以上
現場溶接部	【内面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管－第4部：内面エポキシ樹脂塗装 (JIS G 3443 - 4) 溶剤形エポキシ樹脂塗装	0.5 mm以上 (「農業用プラスチック被覆鋼管 (WSP A-101-2009)」による)
	【外面塗装】 「水道用塗覆装鋼管ジョイントコート (WSP 012-2010)」	プラスチック系の場合 基 材：1.5 mm以上 粘着材：1.0 mm以上
備考1. 制水弁室、スラストブロック等貫通部の外面塗覆装は、原則としてプラスチック被覆とする。 なお、スチフナーについても同様とするが、同部の被覆厚さについては規定しない。 ただし、フランジ等外面部でプラスチック被覆の施工ができない場合は水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装とし、塗膜厚 0.5mm 以上とする。		
2. 継手部の外面塗覆装は、「水道用塗覆装鋼管ジョイントコート(WSP 012)」プラスチック系を基本とする。なお、施工条件等やむを得ない理由により、プラスチック系が使用できない場合は、ゴム系を使用する。ただし、ゴム系の最小厚さは、1.5mm とする。		